

令和6年度 研究集録



大輪

第33集

研究主題

自ら考えて行動する力を育む授業づくり
～対話的な学習活動を通して～

(1年次 / 2年計画)

秋田県立大曲支援学校

目 次

はじめに 校 長 阿部 純一

○全校の研究 1

○小学部の研究 8

○中学部の研究 18

○高等部の研究 28

○寄宿舎の研究 39

○研究のあゆみ 46

おわりに 教 頭 北島 英樹

研究同人

はじめに

本校では、昨年度まで2年間にわたり「意欲的に自分の役割に取り組む力を育てる授業づくり」を主題とする研究に取り組んできました。成果として、ICTを活用しての学習評価や、それに伴う評価規準の具体化と手立ての明確化、自立活動の視点からの学習活動の妥当性など得るものは大きいものでありました。児童生徒が自分から進んで活動に取り組むためにはどのような支援があればよいか。また、本時の振り返りから見えてきた気づきや課題を次時の目標に繋げるためにどのような工夫が必要か等、授業実践を通して学ぶことができたことは大きな成果と言えます。

さて、今年度は新たに「自ら考えて行動する力を育む授業づくり」を主題として設定し、「対話的な学習活動を通して」を研究の切り口として授業研究を中心とした校内研究を実施しました。昨年度の反省で、学習環境の整いすぎは、逆に児童生徒が考えなくてもできてしまう状況になる危険性があるという意見が出ていました。このことから、他者との対話的な学び合いの場や自分で考える機会を充実させることにより、自身で選び、決め、自分の考えの変化に気付いて行動できる児童生徒に育つのではないかと考え、本研究を進めることにしました。

研究に当たっては、児童生徒の障害や発達段階に応じた対話的な学習活動の捉えや考えて行動するという現れの解釈など、授業研究以外にも共通理解を図る研修も行いました。また、昨年度までの研究を生かすために、キャリア教育の視点から学部間のつながりの意識化や児童生徒の変容が単元目標や学習評価、単元目標についての評価規準を設けて授業づくりに取り組んできています。

本集録は、まだ不十分ではありますが、これらの取組についてまとめたものです。本集録を御高覧いただきました皆様には、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年3月 校長 阿部 純一

全校の研究

全校の研究

研究主題 自ら考えて行動する力を育む授業づくり
～対話的な学習活動を通して～（1年次／2年計画）

1 主題設定の理由

（1）前年度の研究から

令和5年度は、「意欲的に自分の役割に取り組む力を育てる授業づくり」を研究テーマとして、各教科等を合わせた指導を中心に検証を行った。評価規準の具体化による学習活動と手立ての明確化を図り、根拠のある授業づくりを実践したことで、自ら取り組む力の育成につながった。一方で、児童生徒の対話的な学びの場の工夫が必要であったり、教師の支援が手厚いがゆえに児童生徒が考えなくてもできてしまう環境であったり、課題が浮き彫りとなった。

（2）学校経営案から

今年度本校では、「対話的な学習活動による自ら考え行動する力を育む授業づくりの推進」が学校経営の重点事項の一つとして挙げられた。児童生徒が自ら考えて行動する力の育成に向けて、対話的な学習活動を手段とし、教師の発問やグルーピング等の児童生徒が考える状況づくりを工夫しながら、PDCAサイクルに基づいた授業づくりを目指す。

（3）社会的要請から

「対話的な学び」について、「子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める『対話的な学び』が実現できているか。身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められる。」（中央教育審議会答申 2016）としている。

対話の相手は子どもだけでなく、教職員、地域の人、先哲など幅広いことを押さえない。以上のように、本校では、対話的な学習活動を手段として、自ら考え行動する力を育む授業づくりに向けて、授業改善を図っていきたいと考えた。

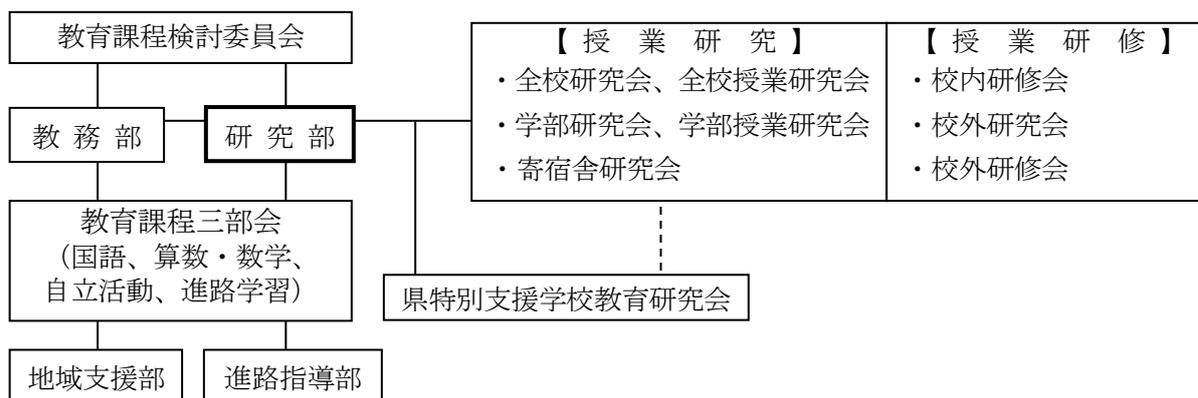
2 研究主題の捉え

自ら考えて行動する力の育成のために、自分と他者の意見や考え方を比較したり、自分だけでは気付くことが難しい気付きを得たりしながら、児童生徒が考えを広げたり深めたりできる授業づくりを目指したい。

3 研究仮説

対話的な学習活動を通して様々な考えに触れることで、自分に合った方法を選び、自ら行動する力が育まれるのではないかと考えた。

4 研究組織



教育課程検討委員会：校長、教頭、教育専門監、学部主事、学部副主事、寄宿舎主任、分掌主任、ICT活用推進リーダー

授業実践を通じた教育課程の評価、検討、改善事項の整理、立案等を行う。

教育課程三部会：国語、算数・数学部会～中学部主事、研究副主任、進路指導副主任、各学部2名
 自立活動部会～小学部主事、地域支援主任・副主任、研究主任、総務副主任、各学部2名

進路学習部会～高等部主事、進路指導主事、総務主任、各学部2名

学校評議委員や地域関係者からの意見を踏まえ、各学部の教育資料の見直し等の課題を吸い上げ、授業改善に生かすべき事項について検討する。

県特別支援学校教育研究会：県内特別支援学校の教職員「全員」が会員

特別支援学校の課題について、特別支援学校の充実と発展を目指す。

5 研究内容と方法

1年次である今年度は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを目指し、「対話的」な学習活動について学部での捉えを明確にし、生活単元学習と保健体育科の学習を設定し検証を行う。2年次は、対話的な学習活動について期待される児童生徒の姿を用いた学習評価を実施して、自ら考えて行動する力の育成を目指した授業づくりを実践する。自立活動においては、育成を目指す資質・能力を明確にし、児童生徒の実態に即して目標や内容を設定する。

具体的な研究方法は表1の通りとする。

表1 研究の内容と方法

内 容	方 法
<p>「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業づくり</p> <p>○全校授業研究会・学部授業研究会：授業提示と授業研究会及び改善授業の実施</p> <p>○教職員の共通理解促進、対話に関する研修会：全校研究会・学部研究会・研修会の実施、研究集録・研究部報の発行</p>	<p>○様々な考えに触れるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話的な学習活動についての共通理解 ・教職員に対して対話に関する研修会の実施 ・授業づくりの視点の設定 <p>○児童生徒自身が自分に合った方法を選ぶために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育計画に基づいた指導目標・内容の設定 ・対話的な学習活動の設定と学習活動の見直し ・全学年による単元構成検討会、学習指導案検討会の実施 <p>○自ら行動する力の育成のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員での目指す「自ら考えて行動する児童生徒の姿」の共有と日々の授業づくりへの反映 ・児童生徒の視点での授業研究会の実施（児童生徒の姿を根拠にした協議）
<p>授業実践を通じた教育課程の改善</p> <p>○教育課程検討委員会</p> <p>○教育課程三部会（国語・算数／数学、自立活動、進路学習）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメントを四つの側面で捉えた教育活動の検討と改善（教科等横断的・資源活用・PDCA・個別の指導計画） ・自立活動の視点をもった授業づくり ・教育課程三部会を活用した授業づくりの課題の吸い上げと改善策の検討

6 対象

小学部・中学部～生活単元学習
高等部～保健体育科

7 研究計画

実施時期	研究会等	実施内容（○授業づくり、□教育課程）
4月	全校研究会①	<p>○□全教職員での研究主題、方向性の確認</p> <p>○□対話的な学習活動の捉えと今年度研究について全教職員での共通理解</p>
	学部研究会①	<p>○□全校研究主題を基にした学部研究の方向性の確認</p> <p>○□目指す「自ら考えて行動する姿」の具体化や授業づくりの視点の設定</p>
5月	県特別支援学校教育研究会	<p>○□県内特別支援学校の特色ある教育課程の編成や実施における課題の抽出と協議</p> <p>○□自校研究への反映</p>
6月	学部研究会②	<p>○□目指す「自ら考えて行動する姿」に基づく学習内容や手立ての共有及び今後の授業展開へ反映</p>

実施時期	研究会等	実施内容（○授業づくり、□教育課程）
7月	全校研究会②	○□各学部の目指す姿の確認や学部間のつながりや段階的な姿の捉えについて共有し、今後の授業展開へ反映 ○ 対話に関する研修会の実施
	教育課程三部会①	□国語科、算数・数学科、自立活動、進路学習における各学部の指導の実際と課題の整理
8月	教育課程検討委員会①	□1学期までの授業実践を通じた教育課程の評価、検討
	学部研究会③	○ 研究対象とする指導の形態（生活単元学習、保健体育科）における授業実践の振り返りと児童生徒の変容について
9月	単元構成検討会 学習指導案検討会 全校授業研究会① 授業提示：高等部	○ 高等部1年「保健体育科」の授業提示、授業研究会の実施 ○□指導助言者からの研究・授業実践への評価、助言
	単元構成検討会 学習指導案検討会 全校授業研究会② 授業提示：小学部	○ 小学部3年「生活単元学習」の授業提示、授業研究会の実施 ○□指導助言者からの研究・授業実践への評価、助言
10月	単元構成検討会 学習指導案検討会 全校授業研究会③ 授業提示：中学部	○ 中学部3年「生活単元学習」の授業提示、授業研究会の実施 ○□指導助言者からの研究・授業実践への評価、助言
	学部研究会④	○ 研究対象とする指導の形態（生活単元学習、保健体育科）における授業実践の振り返りと児童生徒の変容について
12月	教育課程検討委員会②	□2学期までの授業実践を通じた教育課程の評価、検討
	教育課程三部会②	□国語科、算数・数学科、自立活動、進路学習における各学部の指導の実際と課題の整理
1月	全校研究会③	○□学年として育てたい力に基づいた生活単元学習の中心単元の検討
	教育課程検討委員会③	□今年度の教育課程の評価、検討、次年度の計画
3月	全校研究会④	○□全教職員での今年度の研究成果と課題、次年度の方向性の共有
	学部研究会⑤	○ 次年度の授業づくりや学部研究に向けた構想

8 研究の実際

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

① 様々な考えに触れるために

・対話的な学習活動についての共通理解

中央教育審議会答申に基づき、「対話的な学び」の目的を、子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深めることとした。各学部で学習活動をどのように捉えるかについて全職員で確認した。

また、対話的な学習活動を手段として授業改善を目指すに当たり、本校の教育専門監による対話に関する研修会を実施した。具体例を交えた講話により、教職員間で共通理解を図った。

・対話的な学習活動を促進する学習集団づくりと個に応じた支援

対話的な学習活動を手段とするために、まずは対話的な学習活動が可能な学習集団づくりに努めた。聞くことのマナーや話合いのルール of 定着を図った上で、様々な考えに触れる機会を設けた。一人一人が自分の考えをもてるように、教師の発問や考える視点、既習事項とのつながり等を示し、個々に応じた手立てを検討した。

② 児童生徒が自分に合った方法を選ぶために

全学年で単元構成検討会、学習指導案検討会を実施した。各検討会では、単元目標に対してどのような方法で対話的な学習活動を設定していくのかを検討した。特に、単元の指導計画については学習活動の見直しを随時行い、P D C A サイクルに基づいた授業実践を行った。自分の考えをもつ場の設定や、考えをまとめるツールとして学習支援アプリや検索機能を活用した。また、考えをもつことが難しい児童生徒に対しては、選択肢の準備やワークシートの穴埋め等、具体的な手立てを講じながら授業改善を図ってきた。

③ 自ら行動する力の育成のために

各学部において目指す「自ら考えて行動する」児童生徒の姿を明確化し、教職員間でゴールを共有した。そして、それを日々の授業づくりに反映させた。また、授業研究会において、各学部の目指す「自ら考えて行動する」児童生徒の姿を基に、どんな姿が見られたか、手立ては有効だったかについて協議した。教職員の協議には学習支援アプリを活用した。

(2) 授業実践を通じた教育課程の改善について

教育課程三部会(国語、算数・数学部会、自立活動部会、進路学習部会)の中では、日々の授業づくりの課題の吸い上げと改善策についての意見交換や、教育課程検討委員会への提案事項の検討等を行った。日々の指導づくりの課題解決の糸口として、「授業の基本チェック」の内容の再検討や肢体不自由教育専門監の活用等を実施した。三部会での取組は、職員会議を利用して周知しているが、他分掌と連携し、教職員の共通理解を深め、授業改善につなげていきたい。

9 成果と課題

(1) 成果

① 共通認識の深化と単元構成の定着

対話的な学習活動に関して全校研究会や職員研修等の機会を捉えて、教職員が共通認識を深めたことにより、単元構成では対話的な学習活動の設定と学習活動の見直しが行われた。そのことにより、児童生徒が期待感をもち、やってみようとしたり、経験を生かして自分からやりたい方法を選択したりする姿が見られた。また、タブレット端末を活用することで自分の思いや考えを表現する姿も見られた。児童生徒が思わずやってみたいと思わせる動機付けや仕掛けの工夫、学習支援アプリ等の活用等、児童生徒が自分に合った学び方を選択できる環境の整備は有効な手立てであった。

② 児童生徒の「自ら考えて行動する」姿を育むための段階的な学習内容の設定

各学部で目指す児童生徒の「自ら考えて行動する」姿を明確化し、発達段階に応じた学習内容を設定し対話的な学習活動を実施した。初めは自信がなく、教師から提示された方法で話し合いを進めていたが、自分なりに考えて友だちに問い掛けるような姿が見られた。また、自分で考えることが難しい場合でも、選択肢があることで指差しや視線で選ぶことができた。さらに、学部として目指す姿のゴールを共有したことで、段階的な成長の姿を捉えることができた。日々の授業づくりや授業研究会等を通じて、個々の目指す姿に応じた手立てを工夫し積み重ねたことで、自ら考えようとする素地ができたと考える。「自ら考えて行動する」力をさらに伸ばすために、発達段階に応じた学習内容の充実が求められる。

(2) 課題

① 対話的な学習活動の質の向上

ペアやグループ等の集団で対話的な学習活動をしたときに、交流が目的になっている場面が見られた。対話的な学習活動の量を確保するだけでなく、児童生徒が多様な考えに触れ、自己の考えを深めるための手立てが必要であった。対話的な学習活動の場面では話し合いの視点を設定したり、児童生徒同士の関わりをつなぐ役割を教師が担ったりしていく。また、調べ学習では学習支援アプリ等の機能を最大限に活用し、個別最適な学びを支援する環境を整え、児童生徒一人一人の学習状況やニーズに応じた教材や課題の提供を目指す。

② 授業改善に向けた検討と教師間の対話の重要性

自立活動の視点をもつことで、児童生徒一人一人の実態把握がより丁寧になり、指導場面でも生かされると考える。単元構成検討では、授業を通して育てたい力や必要な手立ての工夫の検討について、教師間で十分に対話を行う必要性を感じた。話し合う内容は項目立てて共通理解を図り、学習指導案に反映させていきたい。

〈参考文献〉

秋田県立大曲支援学校（2024. 3）：研究集録「大輪第32集」（令和5年度）

新潟県立教育センター「主体的・対話的で深い学びの推進」プロジェクト（2018）：主体的・対話的で深い学び実践ハンドブック

中央教育審議会（2016. 12. 21）：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）

小学部の研究

小学部の研究

1 小学部の目指す児童像

- (1) 楽しく体を動かし、健康に生活する児童
- (2) 自分の思いや考えを伝え、友達と仲良く活動する児童
- (3) 夢中になって活動したり、進んで役割に取り組んだりする児童

2 小学部の目指す「自ら考えて行動する」児童の姿

- ・活動の内容や目的に期待感をもち、やってみようとする児童
- ・自分の考えをもったり新しい方法に気付いたりして、自分なりの方法で表現する児童

3 研究の方法

次の方法で、授業づくりの視点の有効性を検証する。

- ・授業づくりの視点を取り入れた単元構成検討会の実施
- ・授業実践チェックリストを活用したミニ授業研究会(以下、ミニ研)による授業改善と評価
ミニ研：学部内で授業参観の機会を設定し、授業改善と評価を行う取組。
- ・抽出児童を中心とした授業参観と研究協議の実施

授業づくりの視点	主な内容
対話的な学習活動の設定	小学部における対話的な学習活動は、次のとおりとする。 協働して課題解決する学習活動 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自分の考えをもつ場の設定 ・課題解決のゴールイメージの共有 ・互いの考えを聴き合える集団の構築 ※「主体的・対話的で深い学び 実践ハンドブック」 (新潟県立教育センター) より抜粋
教師の役割と働き掛けの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の指示、説明、発問 ・教材提示 ※「授業の基本チェック」(本校作成) より抜粋

4 研究計画

月	日	主な活動
4	25	学部研究会① ・小学部の目指す「自ら考えて行動する」児童の姿の検討
6	18	学部授業研究会① 小学部3年「生活単元学習」 ・自ら考えて行動する姿を引き出すための手立ての検証 ・単元構成検討会 5/29 ・学習指導案検討会 6/5
6	27	学部研究会② ・授業づくりの視点を踏まえた、各学年での単元構成検討会の実施
8	29	学部研究会③ ・授業づくりの視点を踏まえた、本時の計画立案(9/24 提示授業)
9	24	全校授業研究会② 小学部3年「生活単元学習」 ・単元構成検討会 8/6 ・学習指導案検討会 8/26
10	31	学部研究会④は、学部授業研究会②として実施 学部授業研究会② 小学部1年「生活単元学習」 ・単元構成検討会 10/7 ・学習指導案検討会 10/16
3	18	学部研究会⑤ ・次年度の研究について

5 研究の実際

(1) 学部研究会の取組

① 小学部の目指す「自ら考えて行動する」姿の明確化

学部研究会①では、学習指導要領解説（総則編）を基に「対話的な学び」の捉えを確認し、「自ら考えて行動する力とは子どものどんな姿か」をテーマに、生活単元学習を通して育てたい力について、学年ごとに話し合った（資料1）。低学年では「やる事が分かる」、高学年では「自己表現」が共通するキーワードとして挙げられた。

研究部で意見を集約してキーワードを挙げ、学部研究会②で話し合い、素案を作成した。これらから「小学部の自ら考えて行動する姿」が明確化され、職員で共通理解できた。

学部研究会①ワークショップまとめ「自ら考えて行動する力とは子どものどんな姿か」	
1年生	・自分の役割が分かり、自分から行う。
2年生	・手掛かりを見てやることに気付く。何をやるか理解し、期待して行動する。
3年生	・もっとやりたいと繰り返し活動に向かう。新しいやり方にチャレンジする。
4年生	・指示の内容を聞いてから動く。自分の気持ちをはっきり伝える。
5年生	・使う道具や手段を選択する。教師の発問に自分の考えを答える。
6年生	・考えて選ぶ。選択して自己表現をする。

資料1：「自ら考えて行動する力とは子どものどんな姿か」のまとめ（一部抜粋）

② 授業づくりの視点を取り入れた単元構成検討会の実施

学部研究会②では、授業づくりの視点の共通理解と、中心単元の構成検討会を行った。

授業づくりの視点を取り入れた単元構成検討会を行うために、研究部で授業づくりの視点を作成し、周知した。対話的な学習活動については、学習指導要領解説編（総則編）より、「協働」の捉え方と意味を確認した。また、学部授業研究会①の指導助言から、集団で目標を共有すること、子ども同士の関わりをつなぐことが課題として挙げられた。そこで、「主体的・対話的で深い学び 実践ハンドブック」（新潟県立教育センター）を参考に、小学部で取り組む対話的な学習活動を「協働して課題解決する学習活動」の内容に焦点化した。

また、児童の実態から、小学部で対話的な学習活動を進める上で、教師との対話や教師の仲立ちが必要であることから、「授業の基本チェック」（本校作成）を基に、教師の役割と働き掛けの工夫の内容を再確認した。

単元構成検討会は、授業づくりの視点が書かれた「ミニ研記録シート」を活用して行った（資料2）。協働して課題解決する学習活動は、「①一人一人が自分の考えをもつ場の設定」「②課題解決のゴールイメージの共有」「③互いの考えを聴き合える集団の構築」の三つの視点から考えた。教師の役割と働き掛けの工夫は、児童の目指す姿と学習内容を基に「授業の基本チェック」の内容を参考にしながら意見を出し合った。学年ごとに授業づくりの視点を踏まえた検討を行うことができた。

小学部 4年 ミニ研 記録シート

単元名： げきだんすまいる～おとのさま、にんじやになる～	児童 8名
目標（自ら考えて行動する姿と照らし合わせて…）	
<ul style="list-style-type: none"> ・友達の動きをまねて、作ったり、工夫したりする。 ・友達を活動に誘ったり、困ったときに依頼したりする。 ・場面にあった言葉遣いと声量で相手に伝わるように話す。 	
【指導内容】	
<ul style="list-style-type: none"> ・劇で使う衣装や小道具等の製作活動 ・劇の練習、発表 	
【協働して課題解決する学習活動】	
<ul style="list-style-type: none"> ・友達の言葉を聞いて活動する場面の設定（グループでの活動でリーダーの設定→リーダーの言葉を聞いて行動。製作したものをリーダーが集める。） 	
【教師の役割と働き掛けの工夫】	
<ul style="list-style-type: none"> ・簡潔な指示 ・児童の考える時間の確保（待つ姿勢） ・T1：全体指示 T2、T3：グループ活動時にリーダー役の児童のサポート T4：個別に支援が必要な児童へのサポート 	

資料2：ミニ研記録シート（実施前）

③ 授業実践チェックリストを活用したミニ研による授業改善と評価

ミニ研とは、学部内で授業参観の機会を設定し、授業改善と評価を行う取組で、1年生（学部授業研究会）と3年生（全校授業研究会）を除く、2・4・5・6年生で実施した。ミニ研の実施計画

学年	日時	単元名
2年	7/11（木）3校時	「わくわくたんけんたい② 寄宿舎に行ってみよう」
4年	10/22（火）3校時	「げきだんすまいる ～おとのさま、にんじゃになる～」
5年	10/28（月）3校時	「スマイルゆうびん」
6年	11/6（水）3校時	「チャレンジ6 レッツゴー～招待しよう～」

ミニ研の進め方

- 1 中心単元の構成検討会をする。※6/27 学部研究会②にて全学年実施
- 2 授業日を決める。
- 3 授業実践後、授業実践チェックリストを受け取る。
改善点を考える。
- 4 授業改善後、改善点と児童の変容を記録シートに記入する。

一単位時間、授業を参観した職員には、授業実践チェックリストに授業づくりの視点を加えたシートに改善案を記載してもらった。また、短い時間でも参観した職員には、気付いたことを「ひとことカード」に記載してもらい、授業者に還元した。

記録シートに改善点と児童の変容を記入したことで、授業実践の成果を見える化できた（資料3）。また、記録シートと授業実践チェックリスト、「ひとことカード」を学部回覧し、成果を共有した。

☆授業参観後に記入☆

【授業参観を受けての改善点】

- ・リーダーとして友達の様子を見たり、関わりに応じたりしながら製作を進めることが難しい児童は、リーダーの仕事が定着するまで製作内容を調整する。

【単元を通しての児童の変容】

- ・交流相手に見せることを意識させたことで、ポイントを意識した丁寧な道具の製作や、相手に伝えることを意識した劇及びダンスの発表につながった。
- ・リーダーを設定したことで、リーダーは自分のことだけでなく友達に気を配ったり、友達もリーダーの言葉掛けで動いたり、児童同士のやりとりが増えた。
- ・単元を通して、教師の指示を聞いて自分のことをするだけでなく、相手（友達、交流相手）を意識して活動する姿が見られるようになった。

資料3：ミニ研記録シート（実施後）

④ 抽出児童を中心とした授業参観と研究協議の実施

学部授業研究会①の指導助言で、一步踏み込んだ研究協議にするために抽出児童を中心とした授業参観の提案があった。全校授業研究会②と学部授業研究会②では2名の児童を抽出して授業参観と研究協議を行った。児童を抽出したことで、授業づくりの視点に沿った協議シートを使用することで、授業参観の視点を統一でき、児童の姿から成果と課題を検討できた。教師の働き掛け方や発問の仕方について具体案が挙げられる協議となった(資料4)。

実践した対話的な学習活動 (協働して課題解決する学習活動)	児童の姿	教師の役割と働き掛けの工夫 (教師の指示、説明、発問、教材提示)
・表現したい形や音の選択	花火の形を自分の言葉で話す 「バチやってみる」とやりたいことを言葉にする	児童の提案を「グループ活動」の雰囲気を取り、復唱全員に伝わりやすい 安心して発言できる雰囲気作り
・互いのグループの花火を見合う活動	花火を見て「たつまきみたい」 発表に注目し、借しめない拍手を贈る	これまでの学習の積み重ね 選択肢の見やすさ、シンプルさ
・2つのグループの花火を合わせて表現する活動	自分が提案していた。 自分の意見を言って友達に同意を求める 全員が楽しそうに活動していた	意欲的に取り組める導入 選択肢があるから考えやすいpp 発問の工夫 発表の見方の工夫

実践した対話的な学習活動

授業中の児童の姿を記入

教師の役割と働き掛けの工夫について記入

5班

転写? オフライン

主役

リーダーが話している時のサブの音かば、児童にとって注目する対象が明確

発問の工夫とイラストの工夫

選択肢の機会+選択肢の文字表示

どうやって「合った!」が実感できるか?

改善案 8班

合わせてよかったに、つなげるために…

- 子どもから引き出したい言葉を予想しておく → そのために必要な支援
- 合わさるよさとは…
→ 例を見比べる、大きさ、速さ
- 最初はココが大事!
みんなの中で、自分の音や形を出せる
- 音や形を見聞きして、相手のグループに「どんな花火があがったと思う?」と発問

資料4：協議シートと改善案（一部抜粋）

(2) 授業実践①【小学部3年 生活単元学習】

<p>単元名 「わくわく探検隊 はなびだどーん②」(総時数 27 時間)</p>	
<p>単元の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花火について見聞して、花火の形や音の違いが分かり、花火のイメージに合った体の動きをしたり、音を鳴らしたりできる。【知】 ・花火の特徴を捉えた表現方法を教師や友達と共有したり、変化する花火に合わせた表現方法を工夫したりする。【思】 ・教師や友達と一緒に表現する楽しさを味わい、自分から表現しようとする。【学】 	
<p>単元設定の理由</p> <p>児童生徒の実態として、友達の様子を見て、自分もやってみようとしたり、まねしたりする姿が見られてきた。繰り返し活動を行うことで、見通しをもち自分から活動に向かうことができ、新しい方法にも試行錯誤したり挑戦しようとしたりする姿も増えてきた。今年度は、テーマを「花火」とし、学習を展開している。花火は、地域の祭りで打ち上がったたり、七夕花火会に参加したり、児童にとって身近なものでイメージしやすく、色や光、音等様々な感覚で楽しむことができる。</p> <p>前単元「はなびだどーん①」では、はなび・アムへ校外学習に行き、花火のイメージを膨らませ、体験したことを基に「はなびシアター」を製作した。色の重なりや光等を「きれい」「面白い」と感じたり、花火の音の迫力や掛け声を楽しんだりした。</p> <p>本単元では、ステージ発表に向け、花火の形や音を身体や楽器等を使って表現する。花火のイメージに合った楽器を選び、音の出し方を工夫したり、花火の形の表し方を考えたりする中で自分の考えを自分なりの表現方法で伝えることにつながると考える。自分や友達と考えた意見を選んだり組み合わせたりすることで、色々な意見があることが分かり、一緒に作り上げる楽しさを感じることができる。発表する機会を設定することで、自分の思いを伝えたり、次はこうしたいと考える姿を引き出せたりできると考え、本単元を設定した。</p>	
<p>「自ら考えて行動する」姿を育むための手立て</p>	<p>児童の変容</p>
<p>◎協働して課題解決する学習活動の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現したい形や音を選択する機会の設定 ・互いのグループの花火を見合う活動の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習で見付けたことを尋ねたり、花火の動画や数種類の花火の形の写真を提示したりすることで、指差しや言葉で、自分の表現したい花火を選択できた。 ・色々な楽器に触れたり、音を文字で表したタブレットを提示したりすることで、音を組み合わせたり自分でタブレットを操作したりして、楽器で花火を表現できた。 ・友達が表現した花火のよいところを見付けて発表したり、まねして取り入れたりして、新しい花火を表現した。
<p>◎教師の役割と働き掛けの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの意見を認め合うことができる雰囲気づくり ・表現している様子の動画を活用した振り返り ・言葉掛けの精選 	<ul style="list-style-type: none"> ・期待感をもって、得意な動きを入れながら、導入の歌を歌っていた。 ・「〇〇みたい」「どっかーん」等、自分の言葉で表現していた。 ・動画に注目して見たり、「〇〇さん、いいね」「もっと高く跳べばいい」「手をつないで」など、次につながる前向きな発言が増えたりした。

9月24日(火) 全校授業研究会

本時の目標(本時13/27)

- ・花火のイメージに合わせた形や音を表したり、友達と一緒に表現したりする。

【思】【表】【学】

協議内容(◇…成果 ◆…課題)

- ◇安心して発信できる雰囲気やグループ活動の雰囲気づくりがされており、友達の発表に拍手や「いいね」という言葉で反応したり、やりたいことを言葉で伝えたりする姿があった。
- ◇児童の演奏や身体表現を動画で撮影し、即時評価していた。動画に注目して「いいんじゃない」と認め合う様子が見られた。
- ◆形グループと音グループで一緒に演奏する際、子どもたちは楽しそうだったが、「合わせて」の捉え方や評価のポイントを明確にできるとよい。

改善案

- 自分の気持ちを言葉にして表現するために
 - ・発言を短冊として残して掲示し、次回からは選択肢として提示するなどして、言葉のバリエーションを増やす。
 - ・子どもから引き出したい言葉を予想しておく。そのために必要な支援を考える。
- 合わせてよかったに迫るまとめ
 - ・ソロ花火、音だけ、形だけ、合わせた動画等、動画を使って比較し、それぞれのグループの重要さやよさを実感できるようにする。

指導助言(本校 教諭(兼)教育専門監 大川 康博)

- ・学習指導案から、正確な実態把握が少し頑張ればできる目標の設定につながっている。
- ・丁寧な学級、学年経営の積み重ねにより、対話的な学習活動ができる学習集団が形成されている。
- ・課題解決のための見合いや教え合いのポイントを提示し、話し合う視点を明確にする。どこを注目して見ればよいか、発表するときは何について話すのかを伝え、「～が楽しかった」から「～がよかった」になるようにする。
- ・教師が先回りしてしまう場面が見られた。児童の反応を待つことを心掛ける。

(3) 授業実践②【小学部1年 生活単元学習】

<p>単元名 「にこにこおたんじょうびかい パート2～」(総時数8時間)</p>	
<p>単元の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誕生日会の準備で製作するものが分かり、必要な道具の準備をする。【知】 ・素材や道具を自分で選択したり、教師に伝えたりする。【思】 ・期待感をもちながら、誕生日会の準備を進んで行ったり、誕生日会を楽しんだりする。【学】 	
<p>単元設定の理由</p> <p>前単元「にこにこおたんじょうびかい パート1」の学習の当初は、自分の誕生日が分からず、誕生日のイメージが希薄な児童が多かった。誕生日カードづくりや誕生日会を盛り上げるための飾りづくり、誕生日会本番でのパンケーキづくりなどの継続的な学習を通して、誕生日は楽しいものだというイメージをもつことができ、次の誕生日会を心待ちにする児童が多かった。</p> <p>本単元では、前単元での学習を基盤にしなが誕生日会に向けた準備を行う中で、くす玉づくりに取り組む。一人一人が自分の役割をもち、課題を達成したときの達成感を得ることで、活動に意欲的に取り組む姿や主体的に活動する姿が期待できると考え、本単元を設定した。</p>	
<p>「自ら考えて行動する」姿を育むための手立て</p>	<p>児童の変容</p>
<p>◎協働して課題解決する学習活動の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員で製作物が完成した喜びや達成感を味わえるように、児童同士で製作物を見合う場面の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回一人一人の誕生日が分かるように、歌詞に合わせて顔写真を提示し、返事をする場面を設けたことで、自分の誕生日が分かり、答える児童が増えた。 ・くす玉が割れた後で飾りを見たり触れたりする時間を設けたことで、飾りが完成した喜びを味わうことができた。 ・児童の製作物を紹介しながらくす玉の中に入れたことで、達成感をもち、「これは僕が作った」と自信をもって答える児童がいた。 ・友達の製作物を、教師が近くにいる児童に紹介すると、そのよさをまねしようとする児童がいた。
<p>◎教師の役割と働き掛けの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期待感をもちことができるような教材の提示や言葉掛けの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・くす玉を設置するときに、教師が「どきどきするね」「割れるかな」等とわくわく感や楽しみな気持ちを言葉にしたことで、くす玉に注目して期待感をもっていた。 ・くす玉が割れたときは、自然と喜びの声が上がり、うれしそうな表情をしていた。 ・児童の個別のねらいを達成できるように、できる活動や少し頑張ればできる活動を設定し、即時評価をしたことで、自信をもって取り組んだ。

10月31日(木) 学部授業研究会

本時の目標(本時5/8)

- ・友達と協力して、くす玉の飾りを作る。【知】【思】

協議内容(◇…成果 ◆…課題)

◇分かりやすいゴールの設定により、児童が期待感をもって活動に向かっていた。

◇児童が選択する場面設定がされており、児童が使う材料を考える、選ぶ、伝える姿が見られた。

◆児童は楽しんでいたが、教師の指示や言葉掛けの声が多い。

改善案

○児童がじっくりと活動したり、関わったりするために

- ・場面によって活動場所を分ける。言葉掛けの精選とタイミング、声量の工夫。

○児童同士の関わりを増やすための手立て

- ・やりとりが生まれやすい課題設定。活動の様子が見合える配置の工夫。

○みんなで作り上げる過程をより共有するために

- ・みんなが見えるような場の設定、目線への配慮。座席配置の工夫。

支援の量(準備、言葉掛け)。好きな物を取り入れた学習活動。

指導助言(本校教頭 北島 英樹)

- ・自然に人と関わる姿があった。これまでの合同学習の積み重ねの成果だと思う。
- ・くす玉が割れると、児童と教師が「やったー」と喜ぶ姿があった。教師が楽しんで授業すると児童に伝わる。児童の喜ぶ姿が授業の評価になる。くす玉を割った余韻をもって授業を終わったことが、繰り返しもっとやってみたいと次を楽しみにする姿につながる。
- ・「協力して」は目標としてはレベルが高い。児童にどこまで求めるのか検討してほしい。役割分担も協力である。ゴールに向けて自分の役割を果たすことも協力する姿と捉えることができる。
- ・合わせた指導は生活科がベースとなっているが、自立活動の視点も大事にしてほしい。実態把握を行い、個々の課題設定に生かしてほしい。

6 成果と課題

(1) 成果

① 児童の安心感と期待感につながる単元構成

今年度からミニ研を始め、学年ごとに授業提示を実施したため、各学年で単元構成検討会を行うなど、TT間で授業について話し合う機会を確保することができた。学部職員へのアンケートより、全学年が年間を通して繰り返し実施する単元構成をしていたことが明らかとなった。繰り返すことにより、児童が見通しをもって取り組む、教師の支援が減る、ゴールイメージを共有しやすくなり期待感につながるなどの変容が見られた。

② 児童の考えを引き出すための場の設定と教材提示

授業研やミニ研の記録、学部職員へのアンケートより、次のような工夫が挙げられた。

- ・活動や道具など、自分で選択する場面の確保
- ・選択肢を「言葉+絵やイラスト」で提示
- ・イメージを膨らませるために、イラストや映像、手本を提示
- ・具体物や実体験で選択肢を提示
- ・少人数のグループで選択形式の話合い
- ・グルーピングの工夫

これらにより、児童が授業の中でやりたいことを自分なりの方法（指差し、身振り、言葉、表情等）で選ぶ、表現する姿が見られた。

(2) 課題

① より効果的な発問内容とタイミング

学部職員へのアンケートより、授業づくりの中で次のような内容について職員が難しさを感じていたことが分かった。

- ・発問内容やそのタイミング
- ・ヒントの出し方（タイミングと言葉の選び方）
- ・分かりやすい発問
- ・どういふねらいで発問するか

児童の考えを引き出すための場の設定は効果的な工夫が多く見られた一方で、その場でどのようなねらいをもち、どのような言葉で発問するのが課題だと考えられる。また、複数の教師で指導する際、誰が、いつ、どのような内容の発問をするのか、TT間で考えておくことも必要である。

<参考文献>

新潟県立教育センター「主体的・対話的で深い学びの推進」プロジェクト(2018)：主体的・対話的で深い学び 実践ハンドブック

中学部の研究

中学部の研究

1 中学部の目指す生徒像

- (1) 運動や食事、睡眠の大切さを知り、心身ともに健康に生活する生徒
- (2) 互いを認め合い、協力して学習に取り組む生徒
- (3) 将来の目標をもち、自分の課題に粘り強く取り組む生徒

2 中学部の目指す「自ら考えて行動する」生徒の姿

- ・相手の気持ちを考え、協働して課題解決する生徒
- ・経験を生かして、やりたい内容や方法を選択する生徒

3 研究の方法

授業づくりの視点	主な内容
対話的な学習活動の設定	○中学部における対話的な学習活動は、次のとおりとする。 <u>協働して課題解決する学習活動</u> ・ペアやグループで教え合う場の設定 ・生徒同士で話し合って役割分担する機会の設定 ・互いに認め合う関係性の構築 <u>自分と結び付け、経験を生かして選択する学習活動</u> ・自分ごととして考えることのできる課題の設定 ・様々な選択肢の準備
教師の役割と働き掛けの工夫	・課題の設定 ・教師の指示、説明、発問 ・グルーピングの工夫

4 研究の計画

月	日	主な活動
4	25	学部研究会① ・中学部の目指す「自ら考えて行動する」生徒の姿の検討
6	27	学部研究会② ・ピクトグラムを活用した、目指す生徒の姿を実現するための学習活動や手立ての整理
7	17	学部授業研究会① 中学部1年「生活単元学習」 ※中学部職員参観 ・自ら考えて行動する姿を引き出すための手立ての検証 ・単元構成検討会 6/18 ・学習指導案検討会 7/2
8	29	学部研究会③ ・初任者研究授業学習指導案検討会（中学部2年「生活単元学習」）
10	24	学部研究会④ ・全校授業研究会に向けた、事前研究会 ※中学部職員参観 ・授業提示：中学部3年「生活単元学習」 ・単元構成検討会 8/23 ・学習指導案検討会 9/20
10	29	全校授業研究会 ・授業提示：中学部3年「生活単元学習」 ・授業研究会
3	18	学部研究会⑤ ・今年度の成果と課題、次年度の方向性について

5 研究の実際

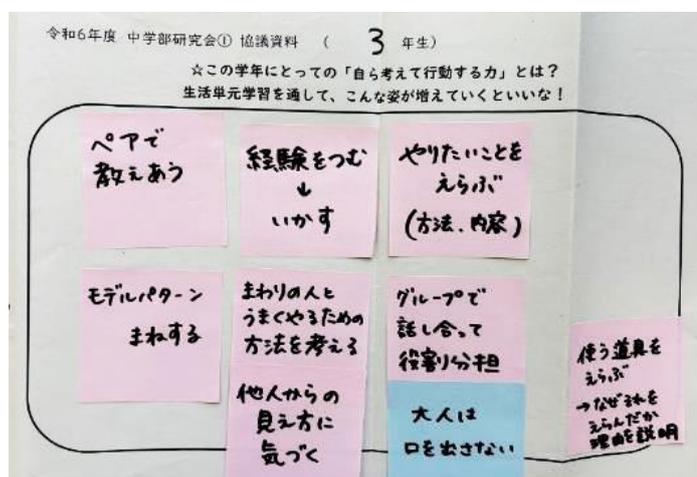
(1) 学部研究会の取組

① 中学部の目指す「自ら考えて行動する」生徒の姿の検証

学部研究会①では、各学年で育てたい「自ら考えて行動する力」とはどのような力なのか、付箋紙等にキーワードで書き出しながら協議をした(資料1)。

協議では、相手の気持ちを考えて行動するために、自分や友達のことを認め、他人から自分がどう見えているのか気付くことが大切であるという意見が出た。また、大人が口を出さず、生徒同士での認め合いや教え合いの場面を設定することで、自分たちで考えて行動する姿につながるのではないかという意見が多かった。自ら考えて行動するためには、考えの基礎となる経験が重要であり、様々な経験を積むことにより、それを生かしてよりよい方法を選ぼうとする姿につながる。教師の支援として、様々な選択肢を用意することも必要だという意見も多く挙げられた。

この協議で挙げられた内容をもとに、中学部の目指す「自ら考えて行動する」生徒の姿を、「相手の気持ちを考え、協働して課題解決する生徒」と「経験を生かして、やりたい内容や方法を選択する生徒」とした。そして、そのような姿を増やしていくために、「協働して課題解決する学習活動」と「自分と結び付け、経験を生かして選択する学習活動」を中学部における対話的な学習活動として設定することとした。また1年生では、目指す生徒の姿を実現するための土台作りとして、「自分の考えをもつ、自分で考えようとする姿」と、「相手に伝えようとする姿」を前期の段階で目指していくこととした。

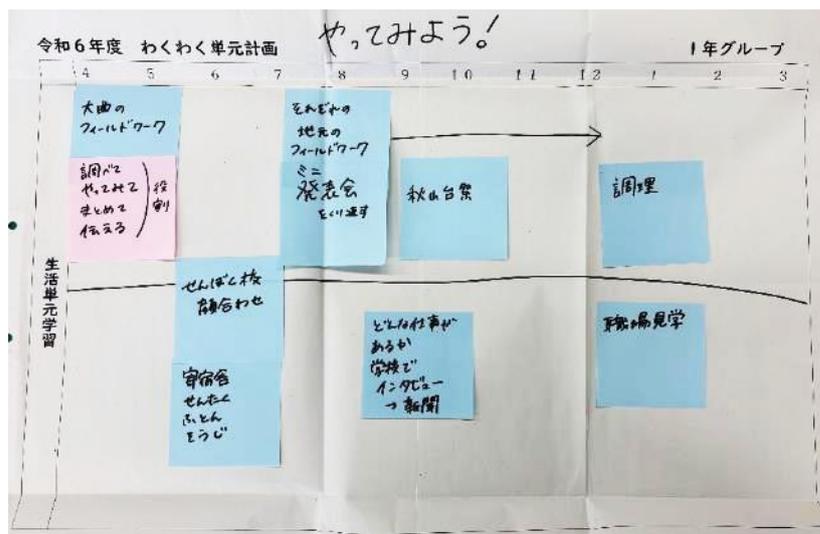


資料1：グループ協議メモ

② 「自ら考えて行動する力」を育むための生活単元学習の年間計画の立案と単元構成検討会の実施

生活単元学習は、中学部において核となる学習である。力を合わせて物事に取り組む協働場面を設定しやすく、対話的な学びのための様々な仕掛けや工夫が必要となる。中学部では、研究の対象授業を生活単元学習とし、各学年の授業づくりに生かすため、全学年に授業研究の成果と課題を還元していくこととした。

各学年で目指す「自ら考えて行動する」生徒の姿を育むために、対話的な学習活動の視点を持ち、授業者全員で生活単元学習の年間計画を立案する機会を設定した(次頁資料2)。また、今年度は全学年で1回以上、生活単元学習の授業研究会を実施した。研究授業を実施するにあたり、単元構成検討会を行い、授業者全員で単元の構成について話し合った。目指す生徒の姿や対話的な学習活動を事前に話し合っていたことで、授業づくりの視点が明確になり、授業者全員が同じ視点で授業づくりに関わった。



資料2：生活単元学習年間計画デザインシート

③ 生活単元学習における、目指す生徒の姿を引き出すための学習活動の検討

学習活動や手立ての検討には、新潟県立教育センター「主体的・対話的で深い学びの推進」プロジェクトによる『主体的・対話的で深い学び実践ハンドブック』を参考にした。このハンドブックでは、独立行政法人教職員支援機構の次世代型教育推進センターが作成した「主体的・対話的で深い学びのイメージ図」で示されている【実現したい子どもの姿】ピクトグラムを基に、授業改善の実践ポイントがまとめられている。学部研究会②では、生活単元学習で目指す生徒の姿や、それを実現するための手立てを整理するために、このピクトグラムを活用した（次頁資料4）。

学年ごとに話し合いながら、生活単元学習の学習指導案の展開部分にあてはまるピクトグラムを貼っていった。そうすることで、授業のどの場面でもどのような学びの姿を育成していくのか、そのためには教師がどのような支援をすればよいのかが整理された。視覚的な情報でまとめることで、育てたい資質・能力や必要な支援が一目で分かるため、授業のデザインを考えることや、授業後の振り返りに効果的であった。

④ 学習支援アプリを活用した協議

学部授業研究会では、タブレット端末を使用し、学習支援アプリを活用した協議を行った（資料3）。生徒の姿を根拠とし、有効な手立てや改善案を記したカードをアプリ上で出し合い、課題として挙げられた学習場面について改善案を考えた。手元のタブレット端末で他のグループの協議記録を見ることができ、学部全体での共有がしやすかった。

生徒の「自ら考えて行動する」姿を引き出すための手立ては有効だったか。

	相手の気持ちを考え、協働して課題解決する姿	経験を生かして、やりたい方法を選択する姿
生徒の姿	他班を気にしてる→隣を気にしていないか？ ■■■と■■■の関係 どのように支援するか	■■■「水分を無くせばいいな」 やりたい気持ちすごい →意欲的 生徒が意欲的
	T1に良い発言を伝え、T1が全体に伝え、共有する →教師の立ち位置を検討	■■■「あんまりはずまないな」 ←教師が「どうしたらいいと思う」と聞くと 気付きにつながる ■■■さんお客さん？Iの支援 場の設定 →実験に関する場の設定

後半グループ

資料3：授業研究会協議シート

中学部2年 生活単元学習 学習指導案(略案)

日時：令和6年7月4日(木) 10:20~12:00

場所：中学部2年1組教室

生徒：男子7名、女子2名、計9名

指導者：今野洋美T1、高橋悠T2、米澤萌香T3、田口千玲T4

1 単元名 見たい、聞きたい、楽しみたい ~宿泊学習に行こう~

2 単元の目標(育成を目指す資質・能力)

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・地域資源を活用した体験を通して、地域資源について知る。	・楽しい宿泊学習をするためには、どうすればよいのかを考え、計画、実践する。	・せんぼく校との合同の活動を通して、互いを知り、交流を深め、積極的に関わろうとする。

3 本時の計画(総時数31時間中の18、19時)

(1) 本時の目標

・みんなが楽しめるスポーツ交流会にするための競技内容、方法を考えて計画する。

【知】【思】【学】

(2) 展開 ※「対話的な学習活動のための手立て」及び「考えて行動するための手立て」はゴシック体で示す。

時間	学習活動	形態	指導の上の留意点、教師の働き掛け
5分	1 本時の学習内容とめあてを知る。	個人	・落ち着いた学習に取り組めるように、本時の流れやめあてを掲示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 本時のめあて：みんなが楽しめるスポーツ交流会にするにはどうしたらよいだろう </div>			
5分	2 ロイロノートの使い方を確認する。	個人	・ロイロノートへの入力では、図や写真等を活用してもよいことを伝える。 ・うまく入力できない生徒の意見はグループ内で協力して対応するように伝える。
40分	3 グループで考えを出し合い、意見をま・話し合	グループ	・意見を出し合いロイロノートに入力することで、みんなの意見を可視化する。 ・うまく意見を出し合えない場合は、写真を提示して選択させた後、グループ内で話し合う。 ・意見を出し合えない生徒は、写真の提示をして意見を引き出す。 ・意見を出し合えない生徒は、写真の提示をして意見を引き出す。 ・意見を出し合えない生徒は、写真の提示をして意見を引き出す。
20分	4 意見を出し合った内容を整理する。	全	・意見を出し合った内容を整理する。 ・意見を出し合った内容を整理する。
15分	5 意見を出し合った内容を整理する。	全体	・意見を出し合った内容を整理する。 ・意見を出し合った内容を整理する。
15分	6 本時のまとめをする。	全体	・意見を出し合った内容を整理する。 ・意見を出し合った内容を整理する。

(3) 評価規準

○それぞれの意見を出し合い、見合いながら、みんなが楽しめるスポーツ交流会にするための意見をまとめている。
〔活動中の行動観察、生徒の表情や発言、まとめで評価〕

資料4：ピクトグラムで支援を整理した学習指導案

(2) 授業実践①【中学部1年 生活単元学習】

<p>単元名 「やってみよう 学校周辺調査～夏～」(総時数 11 時間)</p>	
<p>単元の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺の夏の生物や植物について調べ、春との違いに気付く。【知】 ・春との違いを予想したり、調べて分かったことをまとめたりする。【思】 ・見やすさや伝わりやすさを考えて発表する。【思】 ・身近な自然の季節による変化に興味をもち、友達と協力して学習に取り組む。【学】 	
<p>単元設定の理由</p> <p>虫や生き物などに興味・関心のある生徒が多いことから、実際に外に行って生物を探して写真を撮り、学校に戻ってからその特徴を調べてまとめ、発表するという学習を春から継続している。本単元では「自分自身との対話」の中で、生徒が自分の考えをもつことをねらいとした。題材や学習の流れを統一することで、季節による自然の変化に気付くことが期待される。また、春との比較をすることで、「より見やすい、伝わりやすい」まとめや発表をするにはどうしたらいいだろうということを生徒自身が考えたり、自分の考えを友達との対話に今後発展させたりできるのではないかと考え、本単元を設定した。</p>	
<p>「自ら考えて行動する」姿を育むための手立て</p>	<p>生徒の変容</p>
<p>◎自分の考えをもつ、自分で考えようとするための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の変化について生徒が考えられるよう、複数回同じ場所を巡り、実際に生物を見たり触れたりする学習活動の設定 ・「見やすい、伝わりやすい」まとめ方についてこれまで作成した地図を並べ、ポイントを示して改良点を考える場の設定 ・考えるポイントが分かって活動に向かえるよう、発見カードの項目を明確にした見本の提示 ・生徒が自分で選んで調べられるよう、図鑑とタブレット端末の両方の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数回同じ場所を巡って植物や生物を見たり触れたりしたことで、自分の意見をもつことが難しかった生徒も、変化に気付いたり体験から興味深い物について考えたりする姿が見られた。 ・これまで作成した地図を並べて比較し、より見やすい地図にするためにはどうしたらよいかを問い掛けたところ、文字を大きくする、字を揃えるために線を引く、書く内容を同じにするなど工夫を考える姿が増えた。 ・調べる項目を明確にしたことで、やるべきことが分かり、自分から調べて書こうとする姿が見られた。 ・図鑑とタブレット端末の両方を準備したことで、調べたい内容に合わせて媒体を選択して調べようとする姿が見られた。
<p>◎相手に伝えようとするための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の伝えたいという気持ちを高めるため、学部集会で発表する場面の設定 ・「より見やすい、伝わりやすい」発見カードや地図になるよう、工夫する内容を考える機会の設定 ・作成した地図を廊下に掲示し、一言カードを設置して、掲示物を見た人からの評価やアドバイスを得る機会の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部集会で発表するというゴールを示したことで、相手を意識して発表内容を考えたり、練習したりする姿が見られた。 ・文字の大きさを揃える、ゆっくり書くなど相手を意識して読みやすい文字を書こうとする生徒が増えた。 ・評価を楽しみにして、もっとたくさんの人に見てもらいたいという気持ちが高まった。もらったアドバイスを次の学習に生かそうとする姿が見られた。

7月17日(水) 学部授業研究会

本時の目標(本時9/11)

- ・文字の見やすさや、内容の伝わりやすさを考えて発見カードを作成する。【知】【思】

協議内容(◇…成果 ◆…課題)

- ◇生徒の興味のある活動内容を設定したことで、生徒が積極的に発言したり、集中して調べたりする姿を引き出すことができた。
- ◇発見カードに記入する項目をあらかじめ決めていたことで、生徒にとって何を調べ、記入したらよいか明確であった。また、文字の大きさや書き方等カードの見本を提示したことで、カードにまとめることが苦手な生徒も意欲的に取り組んでいた。
- ◆迷ったときの相談相手が教師になっていたのも、生徒同士で相談できるような働き掛けが必要であった。

改善案

- 自分の考えをもち、自分で考えようとする姿を育むために
 - ・生徒は、調べ学習の基本を学んでいる時期であるので、生徒が自ら必要感を感じ、何をどのように調べるかを自分で考えるようにするとよい。図鑑、タブレットを教師から提示するのではなく、生徒が自分のタイミングで使うことができる環境設定が必要。
- 相手に伝えようとする姿を育むために
 - ・自分の考えを友達に伝える環境をつくるために、同じ物を見た生徒同士でグループを作り、友達とやりとりをしながら発見を想起させる時間を設けるとよい。

指導助言(本校 教諭(兼)教育専門監 大川康博)

- ・授業づくりとして、単元構成の段階から対話的活動をどこに入れるかを考えて作り上げることが大切である。あくまで対話が主体ではなく、生徒に身に付けたい力のために、主体的、対話的、深い学びは手段であることを押さえておきたい。
- ・言語活動がとても大切で、大きさを背丈ともいうことを視覚情報として与えていたのはよかった。このような言語活動のコーディネートを大切にしていきたい。
- ・まとめの仕方について「見やすいカード」ではなく「内容が伝わるカード」というまとめ方が必要であった。目標に対して何を評価するのか、作った物を見て何を評価するのかを学習の過程をしっかりと見てフィードバックしたい。
- ・ICTより実物や体験の方が大切である。実物や体験を大切にすることで、障害特性を補うためのICTとして捉えていきたい、図鑑や辞書は、目や頭、手を同時に使う。タブレットはボタン一つで答えが出る。場面や状況に応じて図鑑や辞書を使うことも大切にしていきたい。

(3) 授業実践②【中学部3年 生活単元学習】

<p>単元名 「中3実験室②～スライムからスーパーボールができる！？～」(総時数 16 時間)</p>	
<p>単元の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食塩には物質の水分を取り除く働きがあることを知る。【知】 ・スライムからスーパーボールができる理由について、既習の内容や、生活経験を基に予想する。【思】 ・友達と協力しながら活動したり、学んだことを普段の生活に生かそうとしたりしている。【学】 	
<p>単元設定の理由</p> <p>会話によるコミュニケーションが中心であり、自分の気持ちや要望等を言葉で伝えることができる。一方で、生徒同士のやりとりも見られるが、教師との関わりを好む生徒が多い。本単元では、中3実験室①の既習事項を活用し、スライムからスーパーボールを作っていく。単元の導入で「スライム+?=スーパーボール」と、スライムにあるものを加えることでスーパーボールができることを表す式を提示する。生徒自身がスライムに何を加えることでスーパーボールができるかを考え、挙げられた予想を1時間に一つずつ試しながら進める。これまでの学習で、予想を立てて、実験し、検証するという流れを繰り返してきたことで、考えたことを相手に伝えたり、行動に移したりする力が身に付いてきた。スライムに食塩を加えることでスーパーボールができる理由を考えたり、考えを比較したりする場面を設定することで、生徒同士の対話が生まれ、自ら考えて行動する場面が期待できると考え本単元を設定した。</p>	
<p>「自ら考えて行動する」姿を育むための手立て</p>	<p>生徒の変容</p>
<p>◎相手の気持ちを考え、協働して課題解決するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の相性や、学習の展開を考慮したグルーピングの設定 ・役割分担をしながら学習を進める場面の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・グルーピングを工夫することで、生徒同士でやりとりしたり、教え合ったりしながら活動する様子が見られた。 ・役割を分担することで、相談して役割を決めたり、協力して活動を進めたりする様子が見られた。
<p>◎経験を生かして、やりたい方法を選択するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想を立てて実験し、検証するという繰り返しの学習の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果について予想することで、自分の身の回りの生活やこれまでの経験、既習の内容と結び付けて考える様子が見られた。 ・繰り返しの学習を設定することで、自分でやりたい方法を選んだり、安心して相手に伝えたりする姿が育ってきた。
<p>◎学びの深まりをつくるための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてについて振り返る場面の設定 ・生徒が考える場面と教師が教える場面の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてについて振り返る場面を設定したことで、次の学びを生み出したり、これまでの学びを自覚したりできるようになってきた。 ・生徒が考える場面と教師が教える場面を設定することで、なぜそう変化するか考えたり、理由を結び付けて伝えたりする力が身に付いた。

本時の目標(本時11/16)

- ・食塩と砂糖の脱水作用について予想を立てる。【知】【思】
- ・友達と協力しながら実験する。【学】

協議内容(◇…成果 ◆…課題)

- ◇相性を考えたグルーピングによって、集団参加が苦手な生徒に対しても他の生徒が気持ちを聞いて役割を分担したり、友達に協力を依頼したりして活動していた。
- ◇生徒の興味のある題材であり、意欲的に活動していた。自分の生活経験から予想する楽しさを味わえる内容であった。予想→実験→結果の収集の流れが分かりやすく、生徒の興味を生活につなげることができる単元であった。
- ◆生徒が野菜を量る際、うまくいかずに困っている場面があり、教師がすぐに答えていたが、考えるヒントを与えたり、生徒同士で考える場面を作ったりするとよかった。

改善案

- 相手の気持ちを考えて、協働して課題解決するために
 - ・さらに生徒同士の関わりを増やすために、リーダーの役割を設け、周りに意見を聞いたりまとめたりしながら生徒同士で実験を進める。そのための教師から生徒への言葉掛けを工夫する。
 - ・教師の介入を減らし、自分たちだけで解決するためのツールを準備する。生徒だけのグループを作る。
- 経験を生かして、やりたい方法を選択するために
 - ・繰り返しの活動で、見通しをもって意欲的に取り組んでいた。生徒がより自ら考えて行動するために、スライムから身近な物へ発展させていけるように次の問いや課題につながるまとめ方を工夫する。

指導助言(本校 教諭(兼)教育専門監 大川康博)

- ・生徒が自ら実験をして、見たこと、感じたことから考え、行動する「静」から「動」の授業に変わってきた。
- ・日頃の授業を問い直す視点として、授業の主語は生徒になっているか、生徒同士の対話が成立しているか、指示、号令を問い掛けに変えているかを考えてほしい。
- ・自ら考えて行動する姿は、一時間の中のどのような場面を作れば生徒が獲得できるかを考えていきたい。
- ・問いを発する子ども(問題を発見し、他者との関わりを通して主体的に問題を解決していく子ども)を育成するために、問題を発見する「それはどういうことか」、解決方法を見通す「こうするとよいのではないか」、問題解決を図る「こう考えるがどうか」、問題解決を振り返る「こうしてみたがどうか」という考え方をしっかりと押さえて授業づくりをしていきたい。
- ・ICT活用において留意すべきこととして、次のようなことが挙げられる。ICTの活用自体が目的とならないようにすること、児童生徒の発達段階を踏まえ、デジタルとアナログのそれぞれのよさを適切に組み合わせること、児童生徒の目や身体の疲労が増さないよう授業の実施方法を工夫すること。

6 成果と課題

(1) 成果

① 目指す生徒の姿を実現するための手立ての見える化

独立行政法人教職員支援機構の【実現したい子どもの姿】ピクトグラムは、育てたい資質・能力や必要な支援が一目で分かり、目指す生徒の姿を実現するための手立てを考えるのに効果的であった。普段の授業で行っている支援が、ピクトグラムによって見える化されて整理されるため、支援の根拠として分かりやすかった。

② 授業者全員の共通理解のための単元構成検討会の実施

各学年で取り組む生活単元学習を研究対象授業とし、授業者全員で年間計画や単元の構成について話し合う機会を設定した。目指す生徒の姿や授業でねらう対話的な学習活動を事前に話し合うことで、授業づくりの視点が明確になり、授業者全員が同じ視点で授業づくりに関わった。

③ 生徒同士の対話を増やすためのグルーピングの工夫

単元の進め方を考える上で、生徒同士のグルーピングの仕方が重要であった。生徒同士の相性だけでなく、生徒一人一人の目指す姿を考慮しグループ分けをした。グルーピングの工夫により、生徒同士で役割分担をしたり、相談しながら活動したりする姿が増えた。

(2) 課題

① 自ら考えて行動するのを待つ支援

「自ら考えて行動する力」を育むためには、生徒が考えて行動する場面を意図的に設定する必要があるが、授業の中で教師が先回りして手助けしてしまうことがあった。教師が準備をしすぎずに、生徒が困る場面を設定して待つことも大切な支援であることを再確認し、「自ら考えて行動する力」のさらなる育成につなげていく。

② 生徒同士の関わりを増やすための教師の役割

グルーピングの工夫により生徒同士の対話は増えてきたが、十分でなく、教師が生徒と生徒をつなぐ役割を担うこともあった。今後さらに生徒同士の関わりを増やすためには、生徒だけで活動するグループを設定したり、リーダー役を決めたりして、教師が介入せずに見守ることも必要となる。ヘルプカード等のツールを活用したり、簡単な相談ポイントを提示したりすることで、生徒同士の関わりを促し、自分たちで課題解決に向かう場面を設定していく。

③ 生徒の「自ら考えて行動する姿」を見取る評価規準の設定

個々の生徒によって、「自ら考えて行動する姿」の規準は異なる。それぞれの生徒について、どのような姿が見られたら自ら考えて行動していると言えるのか、明確な評価規準を設定していくことが今後の課題である。

<参考文献>

新潟県立教育センター「主体的・対話的で深い学びの推進」プロジェクト(2018):主体的・対話的で深い学び実践ハンドブック

高等部の研究

高等部の研究

1 高等部の目指す児童像

- (1) 健康と安全に気を付け、規則正しい生活をする生徒
- (2) 互いを認め合い、共に高め合いながら生活する生徒
- (3) 自分の力で最後までやり遂げるたくましい生徒

2 高等部の目指す「自ら考えて行動する」生徒の姿

- ・互いに考えを伝え合い、自他の課題を改善しようとする生徒
- ・目標や理想の姿に向かって挑戦しようとする生徒

3 研究の方法

次の方法で、授業づくりの視点の有効性を検証する。

- (1) 授業づくりの視点を取り入れた単元構成検討会、指導案検討会の実施。
- (2) 全学年が授業研究会を実施し、授業改善と評価をする。

授業づくりの視点	主な内容
対話的な学習活動の設定	<p>高等部における対話的な学習活動は、次のとおりとする。</p> <p>共に考えを作り上げる学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働して解決する価値や意義のある課題の提示 ・自分たちで選択した既習知識や方法を活用した課題解決 <p>協働して課題解決する学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自分の考えをもつ場の設定 ・課題解決のゴールイメージの共有 ・互いの考えを聴き合える集団の構築
教師の役割と働き掛けの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の設定 ・教師の指示、説明、発問 ・グルーピングの工夫

4 研究計画

月	日	主な活動
4	25	学部研究会① ・高等部の目指す「自ら考えて行動する」生徒の姿の検討
6	27	学部研究会② ・高等部研究の方法や流れの確認 ・秋田大学教育文化学部附属中学校公開研究会の報告 ・保健体育科の授業における対話的な学習活動や手立てを検討
9	3	学部研究会③ ・授業提示：高等部1年「保健体育」 ・全校授業研究会に向けた、事前研究会
9	17	全校授業研究会 高等部1年「保健体育」 ・単元構成検討会 7/29 ・学習指導案検討会 8/21
10	31	学部研究会④ ・全校授業研究会、各学年の有効だった手立てや改善案についての共有 ・学部授業研究会に向けた単元検討会
12	16	学部授業研究会 I 高等部2年「保健体育」 ・単元構成検討会 11/18 ・学習指導案検討会 12/3

1	24	学部授業研究会Ⅱ ・授業提示：高等部3年「保健体育」 ・単元構成検討会 11/15 ・学習指導案検討会 11/22
3	18	学部研究会⑤ ・今年度の成果と課題について ・次年度の研究について

5 研究の実際

(1) 学部研究会の取組

① 高等部の目指す「自ら考えて行動する」姿の明確化

高等部では、指導形態を保健体育科に設定した。生徒が運動を通して様々な課題に主体的に取り組み、試行錯誤したり、互いに協力したりしながら課題を解決していく学習活動が設定できることから、生徒の自ら考え行動する力が育まれるのではないかと考えた。学部研究会①では、特別支援学校学習指導要領解説（総則編）を基に「対話的な学び」の捉えを確認し、各学年で「保健体育を通して育てたい生徒の自ら考えて行動する姿」について話し合った。この協議で挙げられた内容を基に、高等部の目指す「自ら考えて行動する」生徒の姿を、「互いに考えを伝え合い、自他の課題を改善しようとする生徒」と「目標や理想の姿に向かって挑戦しようとする生徒」とした。さらにその姿を目指すために、「習得した技術を活用しようとする姿」と「考えをもち、相手に伝えようとする姿」が見られるような学習活動の設定や手立ての工夫について考えていくこととした。（資料1）

高等部 1 年 保健体育を通して育てたい 自ら考えて行動する力は、子どものどんな姿？			
体力テストなど数値を意識して取り組む	作戦会議をする姿	技術を習得しようとする	健康に暮らそうとする
先生や友達の見方や上手い人を参考にする	ネットで調べる	周りを見ながら行動(準備片付け)	
得意不得意を理解する	できたかできなかったかを理解する		

資料1：「保健体育を通して育てたい自ら考えて行動する力は、子どものどんな姿？」まとめ

② 保健体育科の授業における対話的な学習活動や手立ての検討

学部研究会②では、秋田大学教育文化学部附属中学校公開研究協議会の保健体育科の授業から、保健体育科における対話的な学習活動や、生徒が自ら考えて行動するための学習環境の設定等についての実践例を職員で共有した。生徒間で学び合いができるようなグルーピングの工夫や動画の提示、技能を向上させるためのオリジナルの教材や用具の提示、生徒が頭では理解しているが技能が伴わないときの教師の問い直しや評価の仕方等、題材が変わっても取り入れられることが多々あり、保健体育の学習を考える際の参考になった。また、「ボッチャ」を協議題とし、単元計画や対話的な学習活動、教師の手立てについて話し合った。その際、新潟県立教育センターの「主体的・対話的で深い学び実践ハンドブック」の対話的な実践ポイントを参考にすることで、具体的な学習活動を考えたり、学習活動の偏りやばらつきを確かめたりすることができた。

③ 全校授業研究会に向けた、事前研究会の実施

全校への授業提示に向けて、学部での授業提示と研究協議を行った。協議では、グループや個人の振り返りを全体で共有することや、いろいろなパターンの試合展開を意図的に提示すること等が話題に挙がった（資料2）。また、指導助言では、練習場面での「投トレマット」が技術習得に効果的だったことや、オリジナルのルールを設定したことで生徒が積極的に相談したり作戦タイムをとったりすることができていたこと等が挙げられた。今後は、力加減の指導方法や試合と試合の間の活動内容、運動量の確保等を改善していくこととした。

	技術を習得しようとする姿	考えをもち、相手に伝えようとする姿
生徒の姿	<p>基本の投げ方の練習に熱心</p> <p>投げ方、腕の振り、膝の位置等具体的な提示が良い守屋</p> <p>ゲーム性を理解している生徒が多く楽しんでいる。</p>	<p>もっと話し合うための知識を</p> <p>話し合いの熱量や技術の差があった。</p>
	<p>活動に見通しをもって参加している</p> <p>前回の反省を踏まえて目標を立てていた。守屋</p>	<p>iPadで動画を撮って見合うのがよい。守屋</p> <p>称賛の声が多い</p>
手立て	<p>いろいろな投げ方の実演</p> <p>iPad提示 板書 実演</p> <p>情報共有</p> <p>活動によって隊形の変化</p> <p>的、提示物</p> <p>投トレのままと目録として認識しやすい。</p> <p>チャンスを見逃さずに</p>	<p>体育館でのグループの配置の見直し</p> <p>情報の共有</p> <p>動画を撮っていることで良い点が見える</p> <p>目標発表 守屋</p>

改善案

小グループでまとめたことを全体へ伝える。
チャンスをとらえて集めて共有。

資料2：第1回学部授業研究会 有効だった手立て、改善点まとめ

④ 全校授業研究会を踏まえ、有効だった手立てや改善案の共有と学部授業研究会に向けた単元・指導案検討

全校授業研究会とこれまでの各学年の有効だった手立てや改善案を全職員で共有した。成果としては、技術習得のための活動や教材の提示が効果的だったことや、生徒がアドバイスし合う姿が多く見られたという意見が出された。一方で、提示する専門用語の整理や統一、活動量の確保等の課題も挙げられた。

上記の成果と課題、改善案を踏まえて各学年で単元構成・学習指導案検討を行った。学年の保健体育担当職員が中心となり、担当以外の学年職員も参加し、学年全員で生徒の目指す姿や学習活動、手立て等について検討を行った。学年職員全員が授業づくりに関わることで、生徒の実態や課題の共有、教科横断的な視点で考えることにもつながった。

(2) 授業実践①【高等部1年 保健体育科】

<p>単元名「みんなで高め合おう ～ボッチャ・マガリンピック優勝への道～」(総時数 10 時間)</p>	
<p>単元の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的なルールやマナーを理解する。【知】 ・ 投球技術を高めるポイントが分かって投げる。【知】 ・ 投球技術を高めるために、どのようなポイントに気を付ければよいか気付き、投球に生かしたり、他者に伝えたりする。【思】 ・ チームでの話し合いに貢献しようとする。【学】 ・ 積極的に練習や試合に臨み、競技を楽しむ。【学】 	
<p>単元設定の理由</p> <p>生徒の実態として一定の友達との関わりしかない生徒や、周りの様子を見てはいるが、一人だけで過ごす生徒が多い。普段の学習では、内容を理解し、自分で考えながら取り組める生徒が多いが、いろいろな人と自分の気持ちや意見を伝えながら協力してよりよくしていこうとする気持ちは弱い。また、これまで体力を高めるために体育の授業の中で継続して時間走を行っており、徐々に体力は高まっているが、前単元のフライングディスクやボッチャでは、ねらった的に応じて力加減をしてディスクやボールを投げるのが難しい生徒が多く、投げるディスクやボールの方向、腕の振り方等を調整して投げるのが課題であると感じたことから本単元を設定した。</p>	
<p>「自ら考えて行動する」姿を育むための手立て</p>	<p>生徒の変容</p>
<p>◎対話的な学習活動の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリジナルルールの設定 (試合中、自由に作戦タイムをとれる。投げ方を宣言してから投球する。) ・ 動画や投げ方を見合い、互いにアドバイスをする時間の設定 ・ 互いに意見を伝えやすいグルーピングの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試合中に作戦タイムを取るようにしたことで、どこにどの投げ方で投げるかを友達と相談する場面が増えた。 ・ 投げる際に投げ方を宣言してから投球するようにしたことで、状況に応じた投げ方を選択して投げようとする場面が増えた。 ・ 動画や投げ方を見合い、互いにアドバイスをする時間を設定したことで、撮影した動画を見ながらアドバイスし合う姿が見られた。また、他者からのアドバイスを基にして自分の投げ方の課題を改善しようとする姿も見られるようになった。 ・ 互いに意見を伝えやすいグルーピングの工夫をしたことで、ゲーム中等に必要なに応じて自分から相談していた。
<p>◎教師の役割と働き掛けの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 投げ方チェックポイントの提示 ・ 本時で身に付けたい投球技術に応じた、投トレや練習マットの提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 投げ方チェックポイントを提示したことで、ポイントを基に友達にアドバイスしていた。また、自分がねらった場所や的に当てたり、近付いたりする投球技術が高まった。 ・ 本時で身に付けたい投球技術に応じた投トレや練習マットの提示をしたことで、意欲的に投トレに取り組み、それぞれの投球技術が高まってきた。

9月17日(火) 全校授業研究会

本時の目標(本時7・8/10)

- ・状況に合わせて投球技術のポイントを決めて、ねらったボールに当てる。【知】【思】

協議内容(◇…成果 ◆…課題)

- ◇試合の展開に応じて生徒が自主的に相談したり、互いにアドバイスをしたりする姿が増えた。
- ◇投トレのルールがシンプルで分かりやすかったことで、生徒が活動の目的や投げ方のポイントを意識しながら取り組んだ。
- ◇点数化や試合形式の活動を取り入れたことで、技術習得の程度が見取りやすく、意欲の高まりや具体的な目標設定につながった。
- ◆「投げ方」「投球技術」「作戦」等の言葉の区別がうまく伝わらなかった。
- ◆自分の目標に応じて、撮影する位置を変える工夫をする。
- ◆限られた時間の中での技術習得は難しかった。
- ◆難しい展開、判断に迷ったときの教師の支援や、全体に考えさせるような言葉掛けが必要だった。
- ◆アドバイスした内容を記録できるとよい。積極的に意見が出せない生徒へ、教師の支援や選択する場面の設定が必要だった。

改善案

○情報の提示の仕方

試合中でも動画で動きを確認したり、話し合いでの生徒同士のやり取りを記録したりするなど情報の提示を工夫する。板書の整理をし、言葉や用語を統一する。

○技術を習得したり、思考を深めたりできるような手立て

いろいろなシチュエーションを提示し、どこにどう投げるか考えさせる場面の設定があると、より思考が深まる。また、教師の盛り上げや、試合を止めて解説したり、発問したりする場面を設定する。

○活動量の確保

審判やタイマー、応援試合等、試合に参加していない生徒の活動量を確保する。あくまで保健体育であり、話し合いが中心にならないようにする。

指導助言(本校教頭 北島英樹)

- ・今回の学習指導要領の改訂のポイントとして、体育では、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続することを重視することが挙げられている。ボッチャはその点ではよい題材だった。ただ、特別支援学校における教科の指導は自立活動と密接な関連をもたせることが重要である。その部分をもっと重要視する必要がある。
- ・個別と集団の視点。技術を高めるといふことであれば、個別の指導でどんどん練習を確保していけばよい。自ら考えて行動する姿を引き出すには動機付けが必要である。外発的動機付けと内発的動機付けがあるが、この動機付けをいかにできるかがポイント。特に友達のように上手になりたい、もっと練習したいなどの内発的動機付けを引き出させるためには、やはり集団での活動が重要になり、先生の関わりや仕掛けの工夫が必要である。
- ・学習指導案の生徒の実態、期待する生徒の姿、手立ての書き方については、自立活動と技術的な実態を踏まえて、それに対応するような手立てや目標の記載があればよい。教科の指導であっても、自立活動に関連した部分のねらいをもつと、特別支援学校の専門性が発揮される。

(3) 授業実践②【高等部2年 保健体育】

<p>単元名 「ニュースポーツを楽しもう」ネオホッケー（総時数 12 時間）</p>	
<p>単元の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じたボール操作技術に挑戦しようとしている。【知】 ・ 状況に応じた動きを選択し、判断している。【思】 ・ 練習の場面で気付いたことを、他者に伝えている。【思】 ・ ルールやマナーを守り、相手の頑張りを認めている。【学】 	
<p>単元設定の理由</p> <p>生徒の実態は、生活面で自立している生徒や歩行介助の配慮を要する生徒等様々である。運動部に所属している生徒は少ないが、体を動かすことは好きな生徒が多い。積極的に自分の意見を伝える生徒は少ない。</p> <p>ネオホッケーは特総体の競技種目にもなっており、学習したことを生かせる場がある。また、初めて行う競技への期待感をもち、技術を高めたり、話し合い活動で意見を出し合っチーム力を深めたりする姿を期待し、本単元を設定した。</p>	
<p>「自ら考えて行動する」姿を育むための手立て</p>	<p>生徒の変容</p>
<p>◎対話的な学習活動の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見を伝えるためのグループの工夫 ・ ミニゲームの設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒主体で動きやすいグループを設定することで、話し合いも活発に進んだ。また、意見を伝えるために、意見を出せる生徒には友達に伝わりやすい言葉で話すように伝えたり、教師が仲立ちをしたりすることで、どの生徒も話し合いに参加し、考えの共有ができていた。 ・ ミニゲームを毎回組み込むことで、前授業の反省を踏まえて活動に参加し、友達の得意不得意に気付き作戦を考えていた。タブレットでミニゲームの映像を撮り、振り返りの時間によかった点や頑張っていたことを確認した。そのことで、生徒の学習意欲も高まった。
<p>◎教師の役割と働き掛けの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業のゴールの共有 ・ 視覚的、聴覚的な支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホワイトボードに、めあてからまとめにつながる流れを示したことで、授業のゴールをイメージしながら、どのように動いたらよいか生徒自身が考えて取り組んでいた。 ・ 練習場面において実態に応じたグループを設定し、ペナルティストロークチームは、ゴールに鈴を付けたことで、音で成功を感じられるようにした。また、ホワイトボードにマークを付けたことで、生徒がゴールが決まったことを分かるように工夫した。技術向上グループでは、一つの練習メニューを全員で行うことで、待ち時間に会話が生まれ、友達にアドバイスをする姿や友達の技術を学ぼうとする姿が見られた。

12月17日(火) 高等部授業研究会

本時の目標(本時9、10/12)

- ・ゲームの中で、目的に応じたボール操作技術を身に付けている。【知】
- ・練習やゲームの中で、気付いたことを他者に伝えながらプレーする。【思】

協議内容(◇…成果 ◆…課題)

- ◇生徒が自分の役割を理解して積極的に活動したり、自主的に周囲に言葉を掛けたりする姿が多く見られた。
- ◇これまでの授業やグルーピングから、友達のよさや得手不得手を生徒が理解して役割や作戦に生かしていた。
- ◆生徒の得手不得手、実態差により、試合展開や周囲の動きについていけない生徒がいた。

改善案

○生徒の能力や習熟度に応じたオリジナルルールの設定

ボールの種類を変えてボールスピードに変化を付けたり、走らずに歩くだけに限定した試合を行ったりする。攻守交代を分かりやすくするために、教師がタイミングを指示する。

○作戦会議のツールの工夫

座って話し合う以外にも、実際に動きながら作戦会議を行う等、チームの実態に合わせて自分たちで話し合いの形式を変えられるようにする。

○実態に合わせた役割から、次の段階へ

自分の役割ができるようになっていたり、技術が身に付いてきたりしたときに、次へのステップとして、友達の役割を担ってみるなどの新たな役割を与える。

指導助言(本校教頭 川越真紀子)

- ・生徒それぞれの参加の仕方、全員が参加していた。T1以外の先生たちも自然に役割を果たしていた。生徒の嬉しそうな顔が印象的だった。
- ・一つ一つの活動がコンパクトだった。導入では動画を提示し、練習では「はい、次」とテンポよく進んでいた。生徒の「もっとやりたい」を引き出すよい時間の使い方だった。
- ・授業後の研究会では、短い時間だがたくさん意見が出ていた。教職員全員で授業を作っていくということは本校の強みであるため、今後も続けてほしい。

(4) 授業実践③【高学部3年 体育科】

<p>単元名 「ハンドボール～ハーフコートゲームをしよう～」(総時数 19 時間)</p>	
<p>単元の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンドボールの基本的なルールやマナーを理解する。【知】 ・ノーマークを作るための動きを分かって、プレーする。【知】 ・チームでノーマークシュートに繋げるために、自分または味方がどのように動くことがよいか気付き、実践したり、他者に伝えたりする。【思】 ・積極的に練習、試合に参加して上達を図ろうとする。【学】 	
<p>単元設定の理由</p> <p>生徒の実態として体を動かすことを大半の生徒は好んでいるが、周りの友達と協力して取り組むことへの苦手意識や、友達との接し方が分からない生徒が多い。これまで体づくり運動や体ほぐしの運動を通して様々な体力を高めてきたが、仲間と協力して運動に取り組む場面は少なく、チームプレーや仲間と協力した運動に課題があると感じたことから本単元を設定した。</p>	
<p>「自ら考えて行動する」姿を育むための手立て</p>	<p>生徒の変容</p>
<p>◎対話的な学習活動の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いや作戦タイムに個々の役割が明確になりやすいグルーピングの工夫 ・タブレット端末を使用した話し合い、作戦タイムの設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの意見をまとめたり、グループの生徒を先導したりできる生徒が一人以上いるようにグルーピングすることで、当該生徒を中心にグループ内の役割分担が明確になり、見通しをもって作戦を遂行する姿につながった。 ・生徒たちが、取り組みやすいタブレットのアプリケーションを使用して作戦を立てたり、話し合いをしたりすることで、主体的に活動に参加する生徒が多くいた。
<p>◎教師の役割と働き掛けの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見本となる動きの映像、模範動作をいつでも見られる環境設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・シュートや作戦を行ったときに、すぐに映像や教師の見本を見てフィードバックできるように、タブレット端末や映像の準備をしたことで、自分たちの動きを即時に振り返り、課題解決策を考えていた。

1月24日(金) 高等部授業研究会

本時の目標(本時14/19)

- ・チームで決めた役割、動きを実践して、ノーマークシュートを打つ。【知】【思】

協議内容(◇…成果 ◆…課題)

- ◇ICTやキーワードの提示、教師の演示等、作戦を生徒に理解させるための手立てが十分あり、生徒が分かって動いていた。
- ◇グルーピングの工夫や作戦ボード、自分たちの動きを動画で確認する場面の設定等、生徒が自分の考えをもち、周囲に伝えられるような手立てが十分だった。
- ◆「作戦通りに」という意識が強く、その場の状況を見て動くことができない生徒が多かった。

改善案

○自分で気付いて考えるための手立て

動画の見るポイントや選択肢を提示する。基礎練習やミニゲームで作戦を試す場面を設定する。

○実態に応じた振り返りをするための工夫

学習支援アプリを活用して、即時評価をする。

指導助言(本校教頭 川越真紀子)

- ・生徒が見通しをもって学習に向かっていた。それは一つ一つの活動に意味付けがされていたからである。準備運動では、「寒いので体を温めるために」「ハンドボールでは肩を使うのでしっかり回して」等、行動の意味付けがされていたことで、生徒が目的をもって活動することにつながっていた。
- ・生徒から、「作戦通りできなかったら、自己判断する」ということが出てきたのがよかった。作戦通りやってみて、作戦が大事だと分かった上で出てきた言葉である。この考え方は、ハンドボールのみならず、他の学習や今後の生き方で大事な考え方である。高3でその姿や考え方が見られたことは素晴らしい。

6 成果と課題

(1) 成果

① 協働して課題解決するための話し合いとICT活用

グループでの話し合いやICT活用を効果的に取り入れたことで、生徒同士の学び合いや協働して課題解決しようとする姿が多く見られた。作戦タイムの設定では、動画でお互いの動きを見ながらアドバイスしたり、仲間のよさを生かした役割分担を考えたりしていた。また、作戦ボードアプリで、動きのシミュレーションを通して、友達に考えを伝えていた。学習支援アプリをツールとしたことは、自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞き入れたりすることに有効だった。動画から自分のフォームやチームの動きの善し悪しを考えたりする姿が見られたことも、自ら考えて行動する姿につながったといえる。

② 意欲や考えを引き出すための環境設定とグルーピングの工夫

学習環境を整えることで、生徒の意欲の高まりや技術向上が見られた。ボッチャでは、持ち玉を的玉に近付けるための練習マットを準備したり、中心に近付くと高い得点になるミニゲームを行ったりすることで、目標を絞り、どういう腕の振り方をすれば的に近づくか、相手のボールを外に出すことができるか、考えて練習する姿が見られた。反復練習や習得した技術を生かす場面を設定することで、生徒が見通しをもち、考えを出し合って活動する姿への変容が見られた。また、ペナルティーストローク等、ゲームへの積極的な参加が難しい生徒の活躍する場面を設定することも、生徒の意欲を引き出すことにつながった。対話的な学習活動を深めるためには、お互いに関わりやすい生徒でグループ構成をするなどのグルーピングの工夫が有効であった。意見やアドバイスを言い合える場面が増え、自然に相手への伝え方を考えたり、相手が伝えたことを理解しようとしてしたりしてコミュニケーション力が高まった。プレー中に生徒同士で声を掛け合う姿も見られた。

(2) 課題

① 教科等に応じた対話的な学習活動の設定

学部アンケートから、限られた時間での効果的な学習展開を工夫し、運動量と対話のバランスを取る必要性が挙げられた。十分な活動量の保障や習得したことを生かす時間を確保しながら、対話を取り入れていきたい。今年度有効だった手立てを精選して、保健体育科以外の教科等でも対話的な学習活動を取り入れ、教科に応じた学習活動を選択し、設定していく。

② 「自ら考えて行動する姿」を引き出すための教師の働き掛け

選択肢や指示があれば行動できる生徒が多い。「自ら考えて行動する姿」を引き出すためには、教師の働き掛けとして、待つ姿勢や場を捉えた発問が必要であることを再確認した。生徒が考える場の設定と教師の働き掛けをさらに探っていく。

<参考文献>

- 新潟県立教育センター「主体的・対話的で深い学びの推進」プロジェクト(2018)：主体的・対話的で深い学び 実践ハンドブック
- 秋田大学教育文化学部附属中学校令和6年度春季公開研究協議会 保健体育科E球技「(イ) ネット型卓球」ー多様な見方・考え方に」による話し合いや実践をすることで、テンポの速いラリーで卓球を楽しむことができるかー 授業者：藤倉修 共同研究者：松本奈緒

寄宿舎の研究

寄宿舎の研究

1 寄宿舎の目指す生徒像

- (1) 健康と安全に気を付け、規則正しく生活する生徒
- (2) 仲間を思いやり、協力し合って生活する生徒
- (3) 目標をもち、主体的に行動する生徒

2 寄宿舎の目指す「自ら考えて行動する」生徒の姿

日常生活で培った力を場面が変わっても発揮できる生徒

3 研究の方法

- (1) 「考える機会」「思考を促す働き掛け」を視点とした指導の検証及び改善
- (2) 職員の資質の向上を目指したワークショップを取り入れた研究会の実施

活動づくりの視点	方法
対話的な活動の設定	<p>本研究における検証の場として、定例で実施されている「部屋会」での検証</p> <p>共に考えを創り上げる活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働して解決する課題の提示 ・自分たちで選択した既得の知識や方法を活用した課題解決 <p>協働して課題解決に向けた活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自分の考えをもつ場の設定 ・互いの考えを聴き合える集団の構築 <p>互いの考えを比較する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えの根拠や思考過程の可視化 ・視点を明確にした話合いの場の設定 ・互いを認め合える集団構成
職員の役割と働き掛けの工夫	<p>【部屋会】・グルーピング ・環境設定 ・個に応じたツール</p> <p>・職員からの指示、説明、発問 ・課題の設定と提示の工夫</p> <p>【日常生活】・有効な場面の選択と働き掛け</p>

4 研究計画

月	主な内容	ワークショップの内容
4	研究会① ・今年度の研究の検討 ・部屋会①	・寄宿舎における「対話」
5	研究会② ・研究方法の確認 ・部屋会②	・考える機会づくりについての協議
6	研究会③ ・テーマの捉えと活動づくりの視点の提示 ・部屋会③	・検証の場の設定と指導の在り方
	寄宿舎計画訪問	
7	研究会④ ・「有効な手立て一覧」の作成 ・部屋会④	・考えて行動する姿を目指した指導
8	研究会⑤ ・「職員自己評価シート」の作成と活用 ・部屋会⑤	・合同部屋会に向けて
9	研究会⑥ ・合同部屋会のもち方の確認	・話題提示用動画の検討と作成①
10	研究会⑦ ・合同部屋会①	・話題提示用動画の検討と作成②

11	研究会⑧ ・ 合同部屋会②	・ 合同部屋会に向けて
12	研究会⑨ ・ 「職員自己評価シート」のまとめ ・ 合同部屋会③	・ 部屋会における検証の成果と課題
1	研究会⑩	・ 今年度の成果と次年度への提案
2	研究会⑪ ・ 合同部屋会⑤	・ 生徒主体となる活動の整理
3	研究会⑫ ・ 次年度に向けて	

5 研究の実際

(1) 寄宿舎研究会の取組

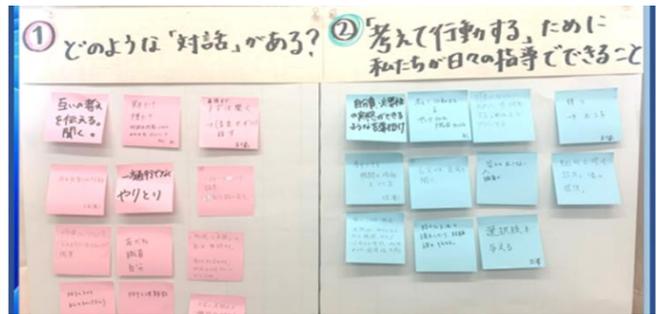
① 寄宿舎の研究における目指す姿

自ら考えて行動するためには、「どのような力が必要か」「寄宿舎生活の中でどのように育むことができるか」について検討したところ、「考える基礎となる経験・知識」「様々な選択肢」が重要で、行動に結び付けるためには実践を積み重ねることが生徒の力に結び付くと考えた。

寄宿舎は、生徒それぞれが時間を選択して生活できる場であり、中学部から高等部の異年齢での集団生活という寄宿舎の特徴を生かした取組を考え実践した。

② 生活指導における対話的活動の捉えの明確化

生活指導の中での「対話」について協議したところ、日々の指導で行ってはいるものの、職員の捉えは様々だった。そこで、ワークショップを行い、職員一人一人の「対話」の捉えについて整理し、研究会の持ち方や内容を検討しながら、取り組んだ。



資料1：ワークショップ協議メモ

③ 生徒に応じた最適な学び

生徒一人一人の考える力を育むために、対話についての実態及び配慮事項を一覧にした。また、対話的活動が生徒それぞれの最適な学びの場となるよう、生徒同士の関係性を考慮したグルーピングにし、環境や役割などは「生徒の持ち味一覧」を用いながら設定した。

実態	<ul style="list-style-type: none"> 単独での対話(同年代間での対話)。 正論を述べた上で(相手の)行動を促す。 自分の考えを伝えたい。 相手の意見は尊重し、受け止める。
配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 対話前に対話の目的を明確にする。 自分の意見に対して、整理して話す(上記に書く)。 人的環境への配慮(机の向き)。 (対話の場を)。
実態	<ul style="list-style-type: none"> 対話で意見を交換して、 自分の意見を聞く。(同じ世代) 意見を交換して、相手の意見を聞く。 意見を聞いて、自分の意見を伝える。
配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 対話の場を明確にする。対話の目的を明確にする。 対話の前には、10分程度 対話の場を明確にする。(宿舎、廊下、)

	生徒A	生徒B	
生徒の持ち味・良さ	<ul style="list-style-type: none"> 「いろいろなことに興味がある。」 「よく聞く。」 「いろいろな人とコミュニケーションがとれる。」 「会話の内容が面白い。」 「面白いことを話してくれる。」 「当分の活動に積極的に参加する。」 「いろいろな活動に対して、やる気がある(対話活動)。」 「意見を交換して、相手の意見を聞く。」 	<ul style="list-style-type: none"> 「誰よりも優しく聞ける。」 「「ありがとう」と感謝を伝える。」 「自分の意見が、自分から伝わりやすい。」 「いつも笑顔で話してくれる。」 「笑顔で話してくれる。」 「周囲の人の言葉を、しっかりと聞き取り、理解している。」 「空気を読んでいる。」 	

資料3：生徒の持ち味一覧

資料2：対話についての実態及び配慮事項

④ 生活指導の中での気付きと職員自身が考える機会の設定

職員の資質・能力の向上を目指して、職員が日々の指導を振り返る機会として「自己評価シート」を活用した。また、生徒同様に職員自身も「考える」機会として、ワークショップを取り入れ、様々な指導方法を知ったり、自分の方法と比較したりするなど毎月工夫して取り組んだ。

指導実践 自己評価シート		
評価基準：4（よい）、3（概ねよい）、2（やや不十分）、1（不十分）		
	11月 評価内容	評価
話し方 伝え方	話し方（大きさ、早さ、量）は適切だったか	4-3-2-1 0-100-0-0 (%)
生徒理解	生徒の実態に応じた働き掛けをしているか	4-3-2-1 8-92-0-0 (%)
対話	生徒の話を最後まで聞いているか	4-3-2-1 38-62-0-0 (%)
研究	干渉しすぎしていないか	4-3-2-1 23-54-23-0 (%)
	「考えなくてもできる」環境をつくっていないか	4-3-2-1 15-62-23-0 (%)
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の話を最後まで聞くことしを意識して指導にあたったことで生徒の気持ちや言葉に耳を傾けることができたと思う。 ・指示を与えなくても動いているようになってきている。（日課、当番、ルール） ・生徒が話しをしているのを最後まで聞くようにした。うなづき、共感などを大切にしたり。 ・考えさせる前に、イエスカノーの答えしかないような聞き方をしていることがある。 	

資料4：毎月実施した職員の自己評価シート

(2) 実践【部屋会を活用した実践】

4月・5月・6月・7月 定例部屋会
【グルーピング】生徒：2名～3名 部屋担当：1～2名
【内容】月の行事、生活目標、寄宿舎生活についての意見要望の確認
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月内容が決まっていたため、職員からの説明や伝達が主で生徒同士の話し合いの機会が少ない。 → 生徒同士が共に考える機会をつくる。 ・部屋会の実施日時が様々で、生徒が集中して参加できない。→ 部屋会実施日時を設定する。 <p>【指導上のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の「聞く」「理解する」「伝える」「考える」「関わる」力の実態を把握する。 ・日常生活及び部屋会を通して考える機会をつくり、生徒と向き合い、考えや思いを丁寧に見取る。 ・担当生徒の個々の見取りと指導に有効な手立てを検証する。
<p>【生徒の変容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日時を固定したことにより、一斉に部屋会を行うことができたため、会に集中して参加できた。そのことにより話し合いが深まり、友達の思いや考えを知る機会になっていた。 <p>【職員の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考える」をポイントにし、実態把握の期間に余裕をもったことで、丁寧に見取り、職員全員で手立てを共有しながら、検証できた。



写真1：部屋会の様子

7月3日(水)～7月9日(火) 定例部屋会 (対話的活動の場)	
【グルーピング】生徒：2名～3名 部屋担当：1～2名	
【内容】話題の追加：職員のお悩み相談「野菜嫌いを直すにはどうしたらいいですか」	
【話題の設定理由等】 話題について、生徒がイメージをもちやすいように、相談対象を身近な人にし、内容についても生徒全員が考えやすい相談(話題)とした。	
活動づくりの視点	生徒の変容
◎自分の考えを伝えられるように ・伝え方、聞き方のルール(否定しない・相づち)を提示する。 ・正解はないことをはじめに伝える。	・以前は否定する発言や相手の話を遮る発言等が多かったが、ルールを伝えたことで建設的な意見が聞かれるようになった。 ・模範的な意見だけでなく、自分の経験からの意見も聞かれた。
◎考えを深めるために ・順序立てて考えることができるように、発展できるワードを提示する。(プリント・言葉)	・課題を投げかけたとき、結論だけの返答が多かったが、友達から結論までの過程や理由を聞いたことにより、考えを深めるきっかけとなった。
◎考えを比較できるように ・言葉で考えを伝えるだけでなく、相違点や共通点を見付けやすいように、考えを付箋紙で提示する。	・友達の考えが文字となっていたため、付箋紙を並べながら、お互いの考えを比較していた。 ・考えが違った場合は理由を尋ねたり、最適な方法を整理したりすることができた。

10月2日(水) 合同部屋会 (対話的活動の場)	
【グルーピング】生徒：5～6名 各部屋担当：2～3名	
【内容】職員のお悩み相談「私の声は大きい?!」(寄宿舎生活の課題)	
【話題の設定理由等】 話題については、日常生活での課題でもある「話し方」「声の大きさ」と設定した。また、前回同様相談者を身近な人にし、相談者の困り感が全員に同じように伝わるように話題提示は動画にした。	
活動づくりの視点	生徒の変容
◎考えを深めるために ・生徒がじっくり考えることができるようにグループごとに「生徒の手立て一覧」等を活用し、個々の生徒への有効な環境、職員からの働き掛けを共通理解する。	・合同の部屋会となったため、新しい環境での会となったが、職員の役割や生徒への対応が明確になっていたため、人数が増えても、定例部屋会と変わらずに考えを伝えたり、聞いたりする姿が見られた。
◎様々な考えを知ることができるように ・同室以外の生徒の意見も聞くことができるように合同部屋会にし、グループの人数を増やす。	・同室の友達の考えは、予想がついていたが初めて関わる友達の考えを聞き、新たな気づきや共感、考えの発展等が見られた。
◎互いの考えを聴き合えるように ・発表の順番を指定し、見通しをもって発言できるようにする。 ・消極的な生徒が発言しやすいように、発表する順番を意図的に設定する。	・消極的な生徒の発表を始めにしたことで、自分の考えを省略せずに、発表することができていた。また、その発言に対して、他の生徒が補足したり、相づちを打ったりすることで、消極的な生徒の自信につながった。

10月24日(木) 合同部屋会 (対話的活動の場)	
【グルーピング】生徒5～6名、部屋担当以外の職員2～3名	
【内容】テーマ「ありがとうの伝え方」「他室訪問の仕方」(寄宿舎生活での課題)	
【テーマの設定理由等】 寄宿舎生活での課題について、客観的に見て考えることができるように動画を制作し提示した。	
活動づくりの視点	生徒の変容
◎考えを深めるために ・考えてほしい課題を実際の様子を見て考えることができるよう動画で提示する。	・興味・関心をもち、動画を見ていた。 ・言葉での説明では伝わりづらかった具体的な場面を実際に見られたことで、課題を共有し考えを伝え合うことができた。
◎環境が変わっても自分の考えを伝えられるように ・部屋単位で前回と違う組み合わせにし、参加職員は部屋担当以外とする。ただし、否定的な意見が出やすい組み合わせは避ける。 ・参加職員はこれまでの生徒の実態と有効な手立てについて、共有する。	・これまでの部屋会から同室の生徒同士の関係性が構築され、同室の友達が自分の考えを伝えやすいように、サポートする姿が見られた。 ・部屋担当以外の職員の考えを聞く機会にもなり、様々な方法を知ることができた。
【さらに深い学びへ】 ◎学んだことを日常生活につなげられるように ・テーマは、寄宿舎生活での課題にする。 ・小グループで意見を出し合った状況を、日常生活で意図的に設定し、学んだことを振り返ることができるようにする。	・寄宿舎の課題を動画として取り上げ、考えを伝え合ったことにより、自分にはない考えに気付いたり、解決の方法を知ったりすることができた。そのことにより、日常生活で実際にその場面に直面した際、一度立ち止まって考えたり、周りの友達を見たりして、できそうな方法を自分で選択し、活動することができた。

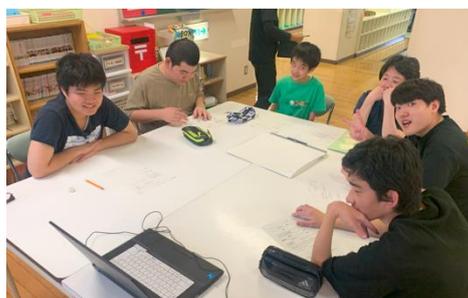


写真2：テーマに関する動画を視聴



写真3：考えを付箋紙に記入

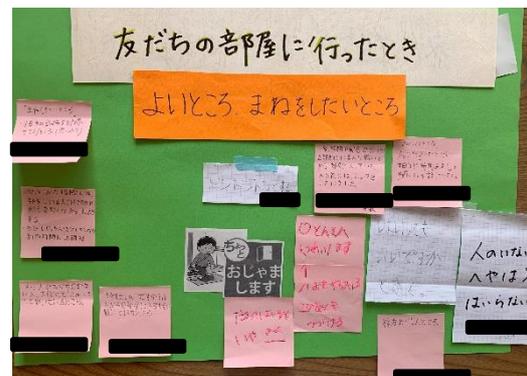
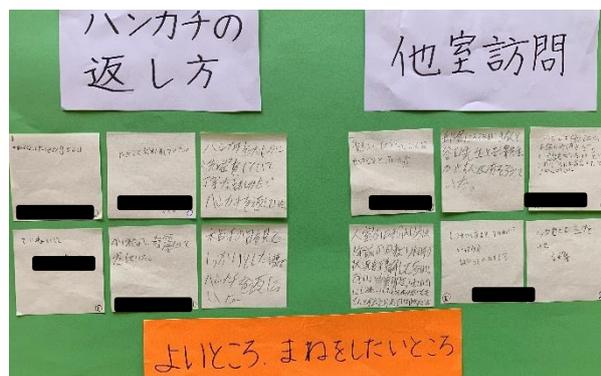


写真4、5：付箋紙を活用した意見交換

6 成果と課題

(1) 成果

① 対話的活動「部屋会」からの学びを日常生活へ

これまで実施してきた部屋会のもち方を検討し、対話的活動を組み入れた。共通の話題を設定し、生徒同士が対話する機会を確保したことにより、生徒一人一人がこれまでの経験から自分の考えや様々な方法を伝えることができた。また、部屋会の枠を拡大して本来の部屋会から合同部屋会にし、関わる人を増やしたことにより、様々な意見や方法を知ることができ、選択の幅が広がった。さらに、2～3名の部屋会から5～6名の合同部屋会にグルーピングを変えながら毎月の部屋会を行ったことにより、日常生活で課題があった際、部屋会で学んだことを思い出して自分ができる方法を選択してやってみたり、解決方法を知っている先輩に相談に行ったりする姿が見られた。

② 職員同士で学び合う機会づくり

これまでも生活指導として、「対話」を大切にしてきたが、本研究で改めて「対話」について考える機会となった。また、毎月の研究会でのワークショップや合同部屋会で、様々な考えや指導方法を知ることができたことで、職員自身の学びとなった。この学びから、生徒が「自ら考えて行動する」ために、どのような場面で、どのような働き掛けが有効か、職員全員が「授業の基本チェック」に沿って確認し、日常生活の中でそれぞれの生徒の思いや考えを見取り、自己評価シートも活用しながら適切な場面、タイミングでの指導の在り方を考えることができた。

(2) 課題

① 集団生活で構築された生徒同士の関わりを生かした取組

合同部屋会での対話を通して、これまで関わりが少なかった生徒を知る機会にはなったが、短期間での実施だったため、行動につなげることができなかった。今後、集団生活を生かしながら、継続的に取り組んでいく。

② 生徒が主体の活動づくり（生徒にとって意義、意味のある活動へ）

寄宿舎には、自治会活動や余暇活動など、様々な定例の活動がある。これまでの活動は、活動の趣旨を優先して実施していたが、今年度、活動の一つである部屋会を取り上げて検証したことにより、寄宿舎生活の中で生徒の力を育むためには、生徒が主体となる活動づくりをしていくことが必要であると考えたため、今後、活動の見直しをしていきたい。

③ 「いつでも」「どこでも」「だれとでも」自分の力を発揮できるように

一人一人の考える力に焦点を当てて取り組み、実態把握と日々の指導から、一人一人の「持ち味」「対話についての実態及び配慮事項」をまとめたことにより、生徒が寄宿舎の中で力を発揮できる場面や役割、環境について検討できた。今後、卒業後を見据え、様々な環境での実践を積み重ねる機会が必要と考える。職員は、生徒の持ち味を生かしながら、生徒が自分自身で考えて行動できる機会を意図的に設定していく。

<参考文献>

新潟県立教育センター「主体的・対話的で深い学びの推進」プロジェクト（2018）：主体的・対話的で深い学び実践ハンドブック

研究のあゆみ（平成10年度～令和6年度）

年度	研究主題	研究指定（国・県）	公開研究会
平10	集団の中で個に応じた指導を行うために ～より実践しやすい指導方法を求めて～		
平11			県南三校合同授業研究会
平12			県南三校合同授業研究会
平13	一人一人の課題に応じた 授業づくりを求めて	マルチメディア活用 学校間連携推進事業 （国・県）	
平14	知的障害養護学校における マルチメディアの実践活用 ～児童生徒の実態に応じた		
平15	活用の在り方について～		
平16	一人一人のニーズに応じた 総合的な支援体制の構築に向けて ～個別の教育支援計画の策定と 他機関との連携の在り方を探る～	特殊教育実践研協力校 （県） 特総研研究パートナー	委嘱研究中間報告会
平17			委嘱研究最終報告会
平18	一人一人の力を伸ばす授業づくり ～授業改善の取組を通して～		自主公開研究協議会
平19			自主公開研究協議会
平20	一人一人が主体的に活動する姿を 目指した支援の探求		自主公開研究協議会
平21			自主公開研究協議会
平22	「児童生徒が関わりから学ぶ」授業づくり		自主公開研究協議会
平23			自主公開研究協議会
平24	「つくる活動」の授業づくり ～児童生徒の主体的取組を目指した 指導内容・方法の工夫改善～		公開研究会
平25			公開研究会
平26	「つくる活動」の授業づくり ～児童生徒が気付き、考え、 判断する姿を目指して～		公開研究会
平27			公開研究会
平28	児童生徒が「気付き、考え、判断する」 授業づくり		公開研究会
平29	「分かる、できる、振り返る」授業づくり	特別支援教育に関する 実践研究充実事業（国）	公開研究会
平30	「分かる、できる、振り返る」授業づくり ～学びがつながる 人とつながる～		公開研究会
令元	「考える」を発揮する授業づくり		
令2	考え、表現する力を発揮する授業づくり		公開研究会
令3	見える化で「分かった」「できた」 「もっと知りたい」が高まる授業づくり		
令4	意欲的に自分の役割に取り組む力を 育てる授業づくり ～めあてにつながる振り返りに 焦点を当てて～		
令5	意欲的に自分の役割に取り組む力を 育てる授業づくり		公開研究会
令6	自ら考えて行動する力を育む授業づくり ～対話的な学習活動を通して～ （1年次/2年計画）		

お わ り に

今年度の研究では、「自ら考えて行動する力を育む授業づくり～対話的な学習活動を通して～」という主題のもと、2年計画の1年目として、「自ら考えて行動する姿」を具現化できるよう授業研究を進めてきました。この「自ら考えて行動する姿」については、児童生徒たち一人一人が様々な学習活動の中でどのような姿として具現化されるのものであるのか話し合いを重ね、全校研究会等の場で共通理解を図ってきました。そしてさらに、「対話的な学習活動」についても同様に話し合いを重ね共通理解を図りました。そこで私が改めて感じたことは、自らの考えを積極的に出し合い対話する教師の姿勢こそ、本研究に取り組む上で不可欠なものであるということでした。全校の研究主題を自分事として捉え、他者との対話をもって日々の授業づくりに落とし込んでいく一つ一つの作業が、教師の授業力向上に結び付くものだと、1年を通して改めて確認することができました。奈須正裕氏（上智大学）の言葉を借りれば「各自が授業を丁寧に振り返るなかで切実に感じた課題のうち、同僚とも共有できることがあれば、校内研究で取り上げて、みんなで力を合わせて共に支え合って乗り越えるに値する課題であると言える」とあるように、日々感じていることを教師間で対話・共有し、共に授業改善に臨むことが、研究活動そのものであるということ痛感させられました。

寄宿舎では、「自ら考えて活動する力を育む生活指導」を研究主題とし、生徒一人一人の考える力を育むために、じっくり考える機会の確保や環境整備のほか、思考を促す働きかけについて取り組みました。そして、日々の指導の記録とその振り返りをより一層丁寧に行うとともに、ワークショップ形式の研修会で検証を重ねてきました。

今年度の研究の詳細について本集録を御一読いただき、御意見をお聞かせいただければ幸いです。課題については真摯に受け止め、来年度2年目、研究のまとめとして生かして参りたいと思います。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり全校授業研究会、並びに学部授業研究会で指導助言者として、御指導や御助言いただいた先生方に心より感謝申し上げます、結びといたします。

教頭 北島 英樹

研 究 同 人

校 長 阿 部 純 一
 教 頭 北 島 英 樹
 川 越 真紀子
 事 務 長 柴 田 真 希
 教諭兼教育専門監 大 川 康 博
 研究主任 藤 田 智 子

小学部	中学部	高等部	寄宿舍
時 田 淳 子	石 川 裕 子	北 林 拓 也	佐 藤 礼 子
佐々木 龍雄	今 野 洋 美	高 田 あ づ さ	吉 澤 真由美
佐々木 顕	藤 井 英 之	塚 田 瑞 恵	櫻 田 教 子
須 田 孝 子	熊 谷 道 大	泉 純 子	小 玉 亜 紀
佐々木真夕子	目 黒 恭 子	斎 藤 健 子	新 山 和 征
赤 川 由 美	木 母 祐 子	遠 山 成 子	高 橋 由 美
高畑 多恵子	加 賀 奈 津 子	佐 藤 幸 徳	加 賀 谷 信 子
勝 田 し の ぶ	高 田 聡 美	関 美 鶴 恵	山 田 繭 子
小笠原なおみ	高 橋 悠	伊 藤 純 子	松 川 倫 子
丹 波 舞 子	豊 嶋 桐 夏	柿 崎 貴 之	後 松 千 恵
森 愛 子	櫻 田 香 織	青 木 真 知 子	五 十 嵐 み ゆ き
鎌 田 育 子	米 澤 萌 香	岩 田 隆 彦	谷 口 大 介
熊 谷 道 子	田 口 千 玲	高 柳 淑 子	佐々木 美和子
松 井 祐 美 子	草 薨 貴 美	高 橋 樹	高 橋 正 吾
田 中 聡 子	八 木 美 祐	沓 澤 愛 純	佐 藤 英 喜 久
阿 部 真 奈		齊 藤 真 由 子	石 川 久
石 井 美 里		池 田 晃 輝	大 友 る み 子
鈴 木 や よ い		小 坂 雄 介	富 樫 千 恵 美
藤 田 千 穂		高 橋 里 美	
阿 部 佑 理		守 屋 充 敬	
大 西 幸		佐 藤 美 空	
佐々木一穂		山 元 将 崇	
古 関 綾 子		佐 々 木 慶 明	
藤 原 文 子		小 助 川 明	
辻 嶋 真 理 子		佐 々 木 修	
相 澤 唯		草 薨 昇	
畠 山 千 紗		川 越 佳 子	
高 橋 千 尋			
田 口 瑞 枝			
太 田 富 子			
石 井 暢 子			

